

令和6年度
事業報告書



社会福祉法人 市原市社会福祉協議会

目 次

“社協の見える化・見せる化”の推進

1. 広報事業 1

財政基盤の充実・強化

1. トップセールスの推進 1
2. 社会福祉基金運用事業 2

人財育成及び人財確保

1. 職員研修 3

トップマネジメントの強化

1. 組織運営事業 5

地域の誰もが互いに支え合うコミュニティづくり【共感】

1. 福祉意識の醸成 7
▶ 地域・福祉を知る機会の充実
▶ 人と人とのふれあいを育む場の推進
2. 小地域福祉活動の推進 1 2
▶ 地区社協の活動・運営支援
▶ 小域福祉ネットワークの活動・運営支援

地域のつながりを豊かにするための仕組みづくり【共創】

1. 地域で孤立させない取組の強化 1 8
▶ 寄り添い支えていく体制の強化
▶ 生活を支えるための体制の強化
2. 地域福祉力の向上 3 1

地域で安心して幸せに暮らすための基盤づくり【共生】

1. 地域で活躍する人材の育成 3 2
▶ 福祉教育の推進
▶ 市内企業との連携
▶ ボランティア活動の推進
2. 権利擁護の推進 3 6
▶ 市原市成年後見支援センターの設置・機能の充実
3. 災害対応力の向上 3 9
▶ 災害ボランティアセンターの体制強化
▶ 災害ボランティアの育成・確保
▶ 災害ボランティアセンター設置運営訓練の実施

指定管理施設の運営

1. 指定管理施設管理経営事業 4 2

"社協の見える化・見せる化"の推進

1. 広報事業

社会福祉への意識の高揚と社協の事業・活動への理解、認識の向上を目的に広報活動を行った。

(1) 機関紙「いちほら社協だより」の発行

88,400部を年3回発行【内訳 新聞折込：76,300部 町会回覧：12,100部】

号数	248号	249号	250号
発行日	5月20日	9月20日	3月20日
頁数	4頁	4頁	4頁

(2) ホームページの運営

最新の情報を掲載し、市民の皆様役に役立つ福祉情報を発信するため、情報提供の迅速化を図った。

<市原市社会福祉協議会ホームページ：http://www.ichihara-shakyo.or.jp>

(3) SNSの運営

ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）を運営し、より多くの皆様に迅速かつ適切な情報を発信した。

- ▶ X（エックス（旧ツイッター））：https://twitter.com/ichihara_ytb
- ▶ Facebook（フェイスブック）：<https://www.facebook.com/ichiharayotuba/>
- ▶ Instagram（インスタグラム）：市社協本部 https://www.instagram.com/ichihara_ytb/
社協関係施設 https://www.instagram.com/ichihara_ytb2/
- ▶ 社協公式LINE：市社協本部 @111xpewj 社協関係施設 @612nqqzy
- ▶ 社協YouTube：<https://www.youtube.com/channel/UC7NZJKj8QYd0cnHHXXERyXw>

成果	若い世代の利用率が高いInstagramのアカウントを新規開設した。広報委員会で利用方法等の勉強会を行い所属職員に周知したことでスムーズな利用につながり、特に児童館のお知らせを行う社協関連施設のアカウントにおいて多くの方々に閲覧いただくことができた。 ◇ホームページ【閲覧回数 10,750回】 ◇X【閲覧回数 5,106回】 ◇Facebook【閲覧回数 9,464回】 ◇YouTube【投稿数0本、総再生回数 1,035回】 ◇Instagram【閲覧回数 7,117回（市社協本部：986回、社協関係施設：6,131回）】 ◇LINE【登録者数 395人（社協公式：180人、社協関係施設：215人）】
課題・方向性	市民が気軽に閲覧することができるツールを積極的に活用していくとともに、本会の取り組みや地域における活動の周知について動画を用いる等、イメージしやすい情報発信を行うことで本会の理解促進や施設の利用率の向上を図る。

財政基盤の充実強化

1. トップセールスの推進

(1) 公的財源の確保

行政計画の具現化を図るための本会の活動計画の目標達成に向けて、安定した公的財源の確保を図るため、本会の取り組みの成果や新たな提案について市長へトップセールスを行った。

市長訪問	8月7日	提案（要望）事項 1. 保健福祉センターの非公募化 2. 成年後見支援センターの体制強化 3. 総合計画及び地域福祉計画と整合した地域福祉活動計画の策定
------	------	---

成果	正副会長による市長へのトップセールスを実施したことで、新たな運営財源の確保、全地区における拠点整備の他、次年度の成年後見支援センター職員増員のための財源確保につながった。
課題・方向性	今後もトップセールスを推進し、補助金等の安定的な確保を図るため本会の役割や責任を果たすよう努めていく。

2. 社会福祉基金運用事業

(1) 社会福祉基金管理

幅広い地域福祉活動を進めていくための財源として有効的な活用を行った。

①積立金

種別	積立預入先	金額
普通預金	千葉銀行	684,432 円
定額預金	ゆうちょ銀行	10,000,000 円
定期預金	J Aバンク	10,000,000 円
定期預金	千葉興業銀行	10,000,000 円
定期預金	京葉銀行	10,000,000 円
定期預金	君津信用組合	10,000,000 円
積立合計		50,684,432 円

②債券

種別	銘柄名	金額
公募地方債	政府保証債第 284 回日本高速道路保有債務返済機構債権	100,000,000 円
公募地方債	千葉県第 10 回公募公債	100,000,000 円
合計		200,000,000 円

社会福祉基金総額	250,684,432 円
----------	---------------

(2) 社会福祉基金の活用

①地区社協拠点整備

地区社協の充実・強化を図るため社会福祉基金と市の補助金を併用し、拠点改修費等及び賃借料等、維持管理経費を交付した。

No	地区名	拠点改修費等		拠点賃借料等		拠点維持管理経費
		社会福祉基金	市補助金	社会福祉基金	市補助金	社会福祉基金
1	辰巳台	0 円	0 円	0 円	0 円	240,000 円
2	市津	0 円	0 円	14,000 円	106,000 円	124,000 円
3	ちはら台	0 円	0 円	0 円	0 円	240,000 円
4	国分寺台	50,000 円	0 円	0 円	0 円	50,000 円
5	姉崎	0 円	0 円	0 円	0 円	33,022 円
6	有秋	920,000 円	80,000 円	60,500 円	544,500 円	240,000 円
7	千種	100,000 円	900,000 円	57,500 円	517,500 円	90,000 円
8	三和	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円
9	南総	0 円	0 円	0 円	0 円	48,000 円
10	加茂	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円
11	五井	496,000 円	4,000 円	48,000 円	432,000 円	8,090 円
12	市原	448,044 円	0 円	0 円	0 円	0 円

【社会福祉基金 活用額】

拠点改修費合計：2,014,044 円（5 地区）

拠点賃借料等合計：180,000 円（4 地区）

拠点維持管理経費合計：1,073,112 円（9 地区）

②地区社協事務局運営経費

地区社協の組織力や運営基盤の強化を図るため、事務局運営経費を交付した。

助成団体	助成金額	備考
地区社協	160,000円×12地区=1,920,000円	1地区年額160,000円

③地区社協車両貸与事業

地区社協の生活課題を抱える地域住民への生活支援体制と充実強化に資するため車両の貸与（リース）を行った。

地区名	車両リース代	備考
辰巳台	198,000円 (16,500円/月×12回)	日常生活支援事業コーディネイト業務として
有秋	122,430円 (17,490円/月×7回)	日常生活支援事業コーディネイト業務として

社会福祉基金活用額合計	5,507,586円
-------------	------------

人財育成及び人材確保

1. 職員研修

「職員研修規程」に基づき、職務の遂行に必要な資格、知識及び技術を習得させるとともに、社会福祉の向上に資するため次のとおり実施した。

(1) 職場研修

研修名	研修内容	期日	研修場所	受講者数
職員研修（BCP）	事業継続計画（BCP）の理解及び内容の共有	7月23日	事務局	26名
職員研修（個人情報保護）	個人情報の適切な管理・取扱いを行うため、組織全体で個人情報保護法を理解する	2月5日	事務局	43名
管理監督者研修	アンガーマネジメントとハラスメント防止について学ぶ	2月28日	事務局	14名
職員研修（キントーンの使用法）	災害VC運営において千葉県社協が導入したキントーンの操作方法について理解する	3月14日	事務局	21名
総務管理グループ				
第1回	法人指導監査への対応について	9月5日	事務局	6名
第2回	後見システムの操作方法について	1月27日	事務局	6名
第3回	個人情報取扱いマニュアルについて	2月27日	事務局	4名
第4回	養護者による高齢者虐待基本のキ	3月下旬	オンライン	10名
地域生活支援グループ【生活支援チーム】				
第1回	個人情報取扱いについて（再確認）	1月30日	事務局	4名
第2回	災害ボランティアセンター設置運営訓練について方向性の共有	2月6日	事務局	10名
地域生活支援グループ【西部エリア推進センター】				
第1回	災害ボランティアセンターの設置訓練について（事前学習）	2月7日	アネッサ	3名
第2回	ハラスメント防止について	3月6日	アネッサ	3名
地域生活支援グループ【中部・南部エリア推進センター】				
第1回	個人情報の取り扱いについて ・日常業務での注意事項	12月28日	なのはな館	15名

第2回	福祉避難所開設運営訓練について	2月5日	なのはな館	8名
第3回	養護者による高齢者虐待基本のキ	2月27日	オンライン	3名

(2) 職場外研修

研修名	研修内容	期日	研修場所	受講者数
令和6年度市町村社会福祉協議会貸付新任担当・相談員研修会	制度内容、貸付及び償還の事務並びに相談支援等の基本事項について学ぶ。	4月19.24.26日	千葉県社会福祉センター	5名
令和6年度市町村地域福祉担当課長・市町村社会福祉協議会事務局長合同会議	・災害時における行政、社協の役割と連携の在り方について ・能登半島地震における千葉県DWA Tの活動について	5月30日	オンライン研修	1名
千葉県福祉教育研究大会	福祉教育指定団体及び学校の3年間の実践発表を通して学校と地域が協働して推進する意義や交換について考えを深めることを目的とする	8月20日	千葉県社会福祉センター	1名
令和6年度千葉県コミュニティソーシャルワーカー育成研修	コミュニティソーシャルワークの手法を学び、必要な知識、技術を身につける	9月2.20.21日 12月13.14日	千葉県社会福祉センター	1名
後輩を育てるコーチング研修	信頼される管理者、リーダーとして、実践的かつ価値あるコーチングスキルを身につける	12月15日	千葉県社会福祉センター	5名
令和6年度成年後見制度市町村長申立研修会	成年後見制度の利用ニーズがある相談に対して、成年後見制度の利用促進に携わる担当者が適切に対応できるよう、市町村長申立ての実務について理解することを目的とする	1月23日	オンライン研修	1名
養護者による高齢者虐待対応基本のキ（福祉事業者等向け研修）	高齢者虐待のとらえ方と大きな流れについて	2月27日	オンライン研修	1名
令和6年度法人後見専門員研修会	法人後見の推進について、成年後見人等の担い手不足の現状と市民後見人や法人後見団体創出の重要性について 他	3月5日	オンライン研修	1名
令和6年度成年後見制度利用促進セミナー	・中核機関の設置について ・市町村の協議会の設置について ・二期計画を踏まえた市町村計画の策定（見直し）について	3月10日	オンライン研修	1名
大学等学生ボランティア担当職員・市町村社会福祉協議会担当職員・市民活動センター担当職員向けセミナー	学生ボランティア活動のコーディネート事例を通して支援の在り方について学び、今後の学生ボランティア活動のさらなる拡充及び支援体制の強化を図る。	3月14日	オンライン研修	1名

成果	個人情報取得から管理まで適切な取扱いが行えるよう、昨年からは継続して個人情報に関する研修会を行った。また、職場でのトラブルによる怒りやストレスがハラスメントに直結しないようアンガーマネジメントを学び、各所属における良好なコミュニケーション、健全な職場環境の構築を目的に管理監督者研修を実施した。その他、各々の担当部署におけるスキルアップを図るため多くの外部研修に参加し資質向上を図った。
課題・方向性	引き続き職場外研修への積極的な参加に加え、職場内での業務の理解や円滑な進行を可能とするOJTを強化し、更なる資質向上を目指す。

トップマネジメントの強化

1. 組織運営事業

健全な社会福祉事業の経営と公正な法人運営を維持するため、次のとおり各会議を開催した。

(1) 正副会長会議

期日	内容
4月10日	1. 事業継続計画（BCP）について 2. 令和6年度社会福祉協議会会議日程について
5月15日	1. 令和6年度 第1回理事会上程議案について
6月12日	1. 令和6年度第1回評議員会上程議案について 2. 令和6年度よつばちゃんのフードパントリーの実施について 3. 令和6年度市原市地域福祉関係者合同研修会 企画案について
7月10日	1. 南部保健福祉センター指定申請について 2. 計画の評価（案）について 3. 市長訪問について
8月7日	1. 南部保健福祉センター指定申請について 2. 市長訪問について
8月7日 市長訪問	提案（要望）事項 1. 保健福祉センターの非公募化について 2. 成年後見支援センターの体制強化について 3. 総合計画及び地域福祉計画と整合した地域福祉活動計画の策定について
9月11日	1. 南部保健福祉センター指定申請について 2. 令和6年度第2回理事会の日程調整について
10月7日	1. 令和6年度第2回理事会について 2. 第6次地域福祉活動計画改定スケジュールについて
11月13日	1. 令和6年度第2回評議員選任、解任委員会について
12月20日	1. 令和6年度第3回理事会について（書面決議） 2. 令和6年度第10回正副会長会 日程調整について
1月22日	1. 第7次市原市地域福祉活動計画 骨子案について 2. 諸規定の改正について 3. 令和6年度第4回理事会及び評議員会の開催日について 4. 正副会長会の日程変更について（3月度）
2月12日	1. 令和6年度第2回常任委員会について
3月5日	1. 第2次地区行動計画の改定について 2. 令和6年度第4回理事会について

(2) 理事会及び評議員会

項目	期日	議案等
監査	5月23日	令和5年度分監査
第1回理事会 (18名出席)	6月5日	1. 令和5年度事業報告の承認について 2. 令和5年度決算の承認について [監査報告] 3. 令和6年度第1回補正予算（案）について 4. 地区社会福祉協議会推進事業補助金交付要綱の制定について 5. 福祉資金貸付要綱の改正について 6. 地区社協車両貸与事業実施要綱の一部改正について 7. 評議員選任候補者の決定について 8. 役員選任案の決定について 9. 令和6年度第1回評議員会の開催について

第1回評議員会 (32名出席)	6月21日	1. 令和5年度事業報告の承認について 2. 令和5年度決算の承認について [監査報告] 3. 令和6年度第1回補正予算(案)について 4. 地区社会福祉協議会推進事業補助金交付要綱の制定について 5. 地区社協車両貸与事業実施要綱の一部改正について 6. 役員の選任について
第2回理事会 (15名出席)	10月30日	1. 令和6年度第2回補正予算(案)について 2. 評議員選任候補者の決定について 3. 令和6年度第2回評議員会の開催について
第2回評議員会 (決議の省略)	11月22日	1. 令和6年度第2回補正予算(案)について
第3回理事会 (決議の省略)	1月14日	1. 専決処分の承認を求めることについて 2. 評議員候補者の選任について 3. 役員選任案の決定について 4. 令和6年度第3回評議員会の開催について
第3回評議員会 (決議の省略)	1月29日	1. 役員の選任について
第4回理事会 (17名出席)	3月18日	1. 令和6年度第3回補正予算(案)について 2. 就業規則の一部改正について 3. 市原市社会福祉協議会職員の定年等に関する規則の制定について 4. 嘱託職員等就業規則の一部改正について 5. 育児・介護休業等に関する規則の一部改正について 6. 給与規程の一部改正について 7. 地区社会福祉協議会運営費補助金交付要綱の制定について 8. 地区社会福祉協議会先駆的・開拓的事業補助金交付要綱の制定について 9. 令和7年度事業計画(案)について 10. 令和7年度予算(案)について 11. 令和6年度第4回評議員会の開催について
第4回評議員会 (38名出席)	3月26日	1. 令和6年度第3回補正予算(案)について 2. 令和7年度事業計画(案)について 3. 令和7年度予算(案)について

(3) 常任委員会

期日	内容
8月28日	1. 各計画評価(案)について
2月12日	1. 第7次市原市地域福祉活動計画 骨子案について

(4) 評議員選任・解任委員会

期日	内容
9月13日	1. 評議員の選任について
11月26日	
1月29日	

(5) 役員研修会

研修内容	講師	期日	研修場所	受講者
市原市地域福祉関係者合同研修会	立命館大学 共通教育推進機構 准教授 小辻寿規 氏	9月19日	市民会館	役員 35名

成果	理事会における ZOOM を活用したオンライン参加の定着と、各会議体においては議案に対する質問だけでなく、建設的な意見・提案がなされるなどの活性化が図られている。
----	---

課題・方向性

引き続き正副会長会において法人の方向性や抱える課題の共有に努め、解決に向けた検討を重ねていく。また、各会議体においても有意義な議論を行える環境づくりに努めていく。

地域の誰もが互いに支え合うコミュニティづくり【共感】

1. 福祉意識の醸成

(1) 地域・福祉を知る機会の充実

①地域福祉活動の見える化・見せる化の推進

(ア) SNSを活用した情報発信

一部の地区社協や小域福祉ネットワークにおいて、フェイスブックやエックス（旧ツイッター）などのSNSを活用し地域福祉活動の周知を図った。

②生活困窮者支援活動の推進

(ア) 「いちほらフードネットワーク」（市原市独自のフードバンク）の推進

生活困窮者を地域全体で支える仕組みづくり（困ったときはお互いさまの地域づくり）に向けて、食料の支援が必要な世帯に対し、無償で食品を提供する常設型の「いちほらフードネットワーク」（市原市独自のフードバンク）を推進した。また、食品を安定的・効果的に確保するため、企業の社会貢献活動と連携した取組みを拡充させた。

協力企業	食品募集場所・期間
(株)イトーヨーカ堂	イトーヨーカ堂アリオ市原店・姉崎店 ※フードドライブ実施に関する覚書締結 令和4年8月1日～（自動的に1年間延長）
マックスバリュ関東(株)	マックスバリュ辰巳台店 ※食品の提供・譲渡に関する合意書締結 令和4年10月1日～（自動的に1年間延長）
生活協同組合コープみらい	コープデリ市原センター ※食品等の寄付に関する覚書締結 令和5年7月7日～（自動的に1年間延長）
(株)ベイシア	ベイシア市原八幡店 令和7年5月からの食品の提供・譲渡に関する合意書の締結に向けた調整協議

<食品受け入れ、提供実績>

年度	食品受け入れ数	食品受け入れ重量	食品提供数	食費提供重量
R6年度	10,516品	5,669.3kg	7,419品	4,590.9kg
R5年度	7,459品	3,871.32kg	7,672品	3,005.34kg
増減	3,057品	1,797.98kg	△253品	1,585.56kg

成果	継続的な食品の受入・提供（配布）活動であるフードドライブ・フードバンクの取組を通じ、既存の(株)イトーヨーカ堂、マックスバリュ関東(株)、生活協同組合コープみらいに加え、新たにベイシア(株)とのつながりの構築が図れた。また、本会の窓口相談を通じた困窮世帯への配布や地域関係者を通じて必要な世帯へ配布する独自のパントリー活動の拡充につながった。
課題・方向性	引き続き、地域の多様な主体と連携・協働し、気軽にできるボランティア活動として食品寄付の協力を呼び掛けることで「困ったときはお互いさまの地域づくり」の意識の醸成に努める。また、地域関係者と連携した食料品等の配布体制の強化を図り、必要とする世帯の掘り起しやその世帯の自立に向けた必要な支援につなげる取組みの強化を図る。

(イ) フードパントリーの開催

生活困窮者を地域全体で支える仕組みづくり（困ったときはお互いさまの地域づくり）を普及させる一環として、子育て家庭等に対して食品を無償で提供するイベント型の「よつばちゃんのフードパントリー」を開催した。

▶市社協主催「よつばちゃんのフードパントリー」

期日	11月23日（土）
場所	市原市三和保健福祉センター
参加者	市内在住で食品の提供を希望する子育て世帯（計45世帯）

内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民や企業・商店等のご厚意により寄付いただいた食品の無償配布 ・いちほら生活相談サポートセンターによる出張相談 ・いちほら地域・子ども食堂ネットワークによる軽食提供 (げんき食堂アネッサ、地域食堂わいわい、地域食堂「コンパス」、こども食堂ごい51) ・ボランティアグループによる遊び場の提供 (おもちゃ図書館「かるがも」、シルバー友の会)
----	---

▶地域主催「フードパントリー」

実施地区	辰巳台地区	千種地区	国分寺台地区
回数	24回	4回	4回

成果	<p>地域住民、企業等から食料品 計 1,973 点 (1,215.7 kg) の寄付が得られた。また、今年度は地域・子ども食堂ネットワークに加入する 4 団体と子どもの遊び場支援を行っているボランティアグループにも協力いただき、それぞれの活動の周知を図るとともに軽食及び遊び場の提供を行った。</p> <p>本事業の実施にあたり、地区社協、小域福祉ネットワークや町会長会等の地域団体、いちほら生活相談サポートセンター等の専門機関等と連携して実施したことで今後の支援に向けた連携体制構築の契機となった。</p> <p>また、3 地区の地区社協を中心に地区独自のフードパントリーを合計 32 回実施し、「困ったときはお互いさまの地域づくり」の輪が少しずつ広がってきている。</p>
課題・方向性	<p>今後も実施地区の拡充を図りながらフードパントリーを継続して実施し、「困ったときはお互いさま」の意識醸成を図っていくとともに、関係機関と連携しながら、新たな生活困窮者支援（独自のフードバンク）の推進に向けた環境整備に取り組む。</p>

(ウ) 制服リユース事業の試行実施

生活困窮者を地域全体で支える仕組みづくり（困ったときはお互いさまの地域づくり）の一環として、中学校へ入学する子どもを持つ家庭を対象に、不要となった制服の寄付を募り必要な家庭へ無償で提供する制服リユース活動を、地区社協・小域福祉ネットワークを中心に実施した。

実施主体	主な取り組み	令和 6 年度実績
市原市社会福祉協議会 国分寺台地区社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内小中学校へのチラシ配布（広報） ・制服寄贈の受付 ・制服譲渡会の開催 	寄贈：34 着 譲渡：35 着
姉崎地区社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内小中学校へのチラシ配布（広報） ・制服寄贈の受付 ・制服譲渡会の開催 	寄贈：133 着 譲渡：47 着
市東第一小学校区小域福祉ネットワーク（市津地区）	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内小中学校へのチラシ配布（広報） ・地区内町会等へのチラシ回覧（広報） ・制服寄贈の受付 ・希望者への制服譲渡 	寄贈：5 着 譲渡：3 着
南総地区社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内小中学校へのチラシ配布（広報） ・福祉バザーを活用した制服譲渡 	寄贈：26 着 譲渡：15 着
ちはら台地区社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内小中学校へのチラシ配布（広報） ・地区内自治会等へのチラシ回覧（広報） ・福祉バザーを活用した制服譲渡 	寄贈：3 着 譲渡：144 着

成果	<p>身近な地域で困りごとを抱える子育て家庭を支えるため、地区社協、小域福祉ネットワークが地区内の小・中学校、市民活動団体などと連携し、家庭や地域住民等への寄贈の呼び掛けを行うことで、5つの地区で活動を展開した。また、配布を通じて支援を必要とする子育て家庭とのつながりを持つことができた。</p>
課題・方向性	<p>対象地区の拡充に向けた地域ニーズの把握や、必要な家庭へ制服を提供するためのマッチング体制や広報活動の強化を図るとともに、支援を通じたつながった家庭の生活課題を把握し、必要な支援につないでいく必要がある。</p>

③福祉バザー事業等・歳末たすけあい募金事業

歳末たすけあい運動への協力として、福祉バザーや歳末たすけあい募金を実施した。

〈福祉バザー等〉

地区	会場	売上額	寄付金等	合計
辰巳台	辰巳公民館	202,545	0	202,545
市津	市津公民館	153,970	324,500	478,470
ちはら台	ちはら台コミュニティセンター	45,000	1,266	46,266
姉崎	姉崎保健福祉センター	366,517	0	366,517
有秋	有秋公民館	257,595	19,565	277,160
千種	千種コミュニティセンター	71,300	9,136	80,436
南総	南総公民館	358,610	212,050	570,660
合計		1,455,537円	566,517円	2,022,054

〈歳末たすけあい募金〉

地区	募金額(R6)	募金額(R5)	前年比
辰巳台	88,062円	56,453円	31,609円
市津	22,000円	—	22,000円
国分寺台	317,570円	352,656円	△35,086円
千種	10,000円	107,420円	△97,420円
有秋	—	10,000円	△10,000円
三和	186,800円	243,580円	△56,780円
南総	1,600円	15,000円	△13,400円
加茂	140,300円	149,300円	△9,000円
五井	904,144円	950,510円	△46,366円
市原	616,350円	624,950円	△8,600円
個人・団体	28,763円	122,942円	△94,179円
合計	2,315,589円	2,632,811円	△317,222円

(2)人と人とのふれあいを育む場の推進

①共生型事サロン事業の推進

高齢者、就学前の親子、障がい者を含む地域の誰もが参加できる地域住民の交流を目的とした場の推進を図った。

地区	会場数	開催日数	延参加者数
辰巳台	5会場	99日	1,160名
市津	8会場	62日	1,058名
ちはら台	5会場	123日	1,349名
国分寺台	4会場	37日	603名
姉崎	1会場	11日	355名
有秋	2会場	20日	518名
千種	1会場	6日	29名
三和	3会場	26日	457名
南総	13会場	122日	2,519名
加茂	3会場	41日	429名
五井	5会場	17日	433名
市原	10会場	155日	2,901名
合計	60会場	719日	11,811名

②子育てサロン（旧ふれあいサロン事業）

子育て家庭等に対して、地域住民やボランティアの参画を得て、ふれあいの場や仲間づくりの場等を提供し、地域の中で誰もが安心して暮らせるよう、福祉コミュニティづくりを推進するために実施した。

地区	会場数	開催日数	延参加者数
姉崎	1会場	11日	241名
三和	1会場	10日	213名
合計	2会場	21日	454名

成果	地域共生社会づくりに向けあらゆる世代の交流を育むため、地域の誰もが気軽に参加し活躍できる「共生型サロン事業」を市内 60 会場で実施し、延べ 11,811 名の方が参加（利用）することで、住民同士の交流やつながりを促進する契機となった。
課題・方向性	誰もが気軽に参加でき、人と人、人と地域のつながりが実感できる地域づくりに向けた多様な居場所を整備していく。

③子どもの居場所づくり活動の推進

（ア）地域・子ども食堂、学習支援活動等

地区社協と地域の関係団体等が協働し、子どもたちが多様な地域の方々と食事等を通じたふれあいや健全育成の機会を提供し、地域で子どもたちが安心して暮らせるような福祉コミュニティづくりを推進するために実施した。

地区	開催日数	参加者数	支援者数	内容
辰巳台	12日	1,025名	313名	地域の中で子どもたちが学校、家以外での居場所として集まれる場として開催。レクリエーションや学習支援、食事の提供を行うとともに世代間交流を図った。 【名称：地域・子ども食堂だんだん】
国分寺台	22日	379名	252名	地域の中で子どもたちが学校、家以外での居場所として集まれる場として開催。学習支援や食事の提供を通じて世代間交流を図った。 【名称：地域食堂コンパス】
国分寺台	17日	54名	61名	地域の中で子どもたちが学校、家以外での居場所として集まれる場として開催。学習支援を通じて世代間交流を図った。 【名称：トリノス】
姉崎	9日	154名	149名	元気な高齢者と高校生等のボランティアの参加のもと、小学生を中心とした、子どもの居場所として開催。レクリエーションや学習支援、食事の提供を行うとともに世代間交流を図った。 【名称：げんき食堂アネッサ】
千種	12日	207名	197名	地域の中で子どもたちが学校、家以外での居場所として集まれる場として開催。レクリエーションや食事の供を行うとともに世代間交流を図った。 【名称：地域食堂わいわい】
五井	9日	111名	110名	地域の中で子どもたちが学校、家以外での居場所として集まれる場として開催。レクリエーションや学習支援、食事の提供を行うとともに世代間交流を図った。 【名称：子ども食堂ごい51】
有秋	10日	215名	171名	地域の中で子どもたちが学校、家以外での居場所として集まれる場として開催。レクリエーションを行うとともに世代間交流を図った。 【名称：あそびの広場】

	年度	開催日数	参加者数	支援者数
子どもの居場所 合計	R6 年度	91 日	2,145 名	1,253 名
	R5 年度	59 日	2,432 名	669 名
	増 減	32 日	△287 名	584 名

(イ) いちはら地域・子ども食堂ネットワーク

市内で地域・子ども食堂を実施する団体等の情報交換や相互交流を促進するとともに、活動の輪を広げることを目的としたネットワーク組織を設立し、その事務局として活動団体の支援の他、市民への周知啓発活動を行った。

項目	期日	参加 団体数	内容
第1回連絡会	9月9日	10団体	<ul style="list-style-type: none"> ・新規加入団体について ・広報用リーフレットとホームページの更新について ・地域・子ども食堂の立ち上げ支援について (仮) 地域・子ども食堂立ち上げ運営マニュアルの整備 いちはら地域・子ども食堂ネットワーク研修会の企画(市民向け) ・千葉県子ども食堂連絡会へのオブザーバー参加について ・令和6年度「よつばちゃんのフードパントリー」について ・意見交換「他地区の地域・子ども食堂に聞いてみたいこと」
研修会	12月8日	8団体	<p>【第1部：講演】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域・子ども食堂ってなあに？」 (千葉県子ども食堂連絡会 代表 高橋 亮 氏) <p>【第2部：活動発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の地域・子ども食堂実践団体の活動紹介 <p>【閉会后】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の地域・子ども食堂実践団体とのマッチング交流会
第2回連絡会	3月10日	11団体	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県子ども食堂連絡会総会・ネットワーク会議内容報告について ・令和6年度いちはら地域・子ども食堂ネットワーク研修会実施報告について ・令和6年度「よつばちゃんのフードパントリー」実施報告について ・地域・子ども食堂立ち上げ運営マニュアルの整備について ・令和7年度いちはら地域・子ども食堂ネットワーク事業計画(案)について ・いちはら地域・子ども食堂ネットワーク名義ののぼり旗作成について ・認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえとの連携について
千葉県子ども食堂 ネットワーク会議	11月6日	—	<p>【実態調査報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実態調査の結果と千葉県こども食堂サポートセンター事業概要 <p>【基調報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国及び千葉県の子どもの食堂とそれを取り巻く状況 <p>【事例発表】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 市川こども食堂ネットワーク (2) 我孫子市子ども食堂ネットワーク (3) 一般財団法人ノーツすこやかこども財団
その他	随時		<ul style="list-style-type: none"> ・相談(新規立ち上げ、活動の参加について) 26件 ・助成金案内、申請支援 7件 ・食品寄付の引き渡し 14団体 71件 ・広報用リーフレット配布 3,000部 (地域関連団体や行政機関等)

成果	市内の地域食堂、子ども食堂の実践者同士のつながりの促進や、新規で立ち上げたい団体や個人の活動を支援するため、ネットワーク会議を定期開催し、積極的な情報交換を行った。いちほら地域・子ども食堂ネットワーク主催の研修会では、65名の市民が参加し、活動の周知を図るとともに活動者（担い手）の確保につなげることが出来た。 また、子どもたちが家庭や学校以外で安心して過ごせる場づくりを推進し、地区社協を中心に「レクリエーションを通じた交流」や「学習支援」などの活動が展開された。
課題・方向性	引き続き、地域・子ども食堂では、新規に立ち上げを検討する個人・団体に対し、効果的な支援が実施できるようネットワーク加入団体を巻き込んで支援策の検討を行っていく。 また、地域の関係団体と連携しながら、子どもの視点に立った多様な居場所の整備に取り組んでいく必要がある。

④サロン関係者交流会の開催

(ア) 子育て支援者交流会

子育て支援に携わっている支援者同士の顔の見える関係づくりを促進するとともに、今後の子育て支援活動の充実や活性化に繋げることを目的に実施した。

期日	8月29日(木)
場所	いちほらこども未来館 多目的ホール
参加者	82名
内容	<p>【講演】気持ちに寄り添う保護者対応 講師：NPO法人子育てひろば ほわほわ 公認心理師 永瀬 春美 氏</p> <p>【情報交換】支援を通じた保護者との関わり方について語り合おう</p> <p>【活動紹介】*市原市出産前後家事等サポート事業 *いちほらファミリー・サポート・センター事業 *登録ボランティアグループ「おもちゃ病院いちほら」 *登録ボランティアグループ「おもちゃ図書館かるがも」 *いちほら地域・子ども食堂ネットワーク</p>

成果	乳幼児期から学童期までの子育て支援に携わる方々が一同に集まることで互いの活動の情報交換・共有を図ることができ、参加者同士の新たな関係づくりや互いの活動の理解に繋がった。
課題・方向性	参加者同士のつながりやお互いの活動の理解を深めるとともに、子どもの居場所づくりやサロン活動など、地域の居場所づくりの普及促進や活動のすそ野の拡充につながる交流会の企画実施に努めていく。

2. 小地域福祉活動の推進

(1) 地区社協の活動・運営支援

地区社協で行われる会議に地区担当職員が参加し、必要な情報提供、助言、アドバイスをを行う等積極的な支援に取り組んだ。

①地区社協事業一覧

		辰巳台	市津	ちはら台	国分寺台	姉崎	有秋	千種	三和	南総	加茂	五井	市原
基本事業	共生型サロン事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	広報・啓発事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	歳末たすけあい運動協力事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	地区行動計画策定・推進事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	多様な主体との連携づくり事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	相談支援事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

	高齢者地域支え合い事業(第2層協議体)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
先駆的・開拓的 事業	日常生活支援事業 (住民参加型在宅福祉サービス)	○	○	○	○	○	○		○	○	○		
	日常生活支援事業 (事業化・活性化推進サービス)	○	○			○	○						
	人材育成事業	○	○	○			○			○		○	
	災害支援ボランティア事業	○		○	○		○			○		○	
	お互いさまの地域づくり事業	○		○	○					○			

②地区社協における各会議体の実施概要

年度	開催日数	延参加人数
R6年度	305日	3,636名
R5年度	307日	3,657名
増減	△2日	△21名

③地区社協への財政支援

(ア) 活動経費

地区行動計画に定める事業活動の推進を図るため、活動経費（市補助金）を交付した。

助成団体	助成金額	備考
地区社協	150,000円×12地区=1,800,000円	1地区年額150,000円

(イ) 地区社協拠点整備【再掲】

地区社協の充実・強化を図るため社会福祉基金と市の補助金を併用し、拠点改修費等及び賃借料等、維持管理経費を交付した。

No	地区名	拠点改修費等		拠点賃借料等		拠点維持管理経費
		社会福祉基金	市補助金	社会福祉基金	市補助金	社会福祉基金
1	辰巳台	0円	0円	0円	0円	240,000円
2	市津	0円	0円	14,000円	106,000円	124,000円
3	ちはら台	0円	0円	0円	0円	240,000円
4	国分寺台	50,000円	0円	0円	0円	50,000円
5	姉崎	0円	0円	0円	0円	33,022円
6	有秋	920,000円	80,000円	60,500円	544,500円	240,000円
7	千種	100,000円	900,000円	57,500円	517,500円	90,000円
8	三和	0円	0円	0円	0円	0円
9	南総	0円	0円	0円	0円	48,000円
10	加茂	0円	0円	0円	0円	0円
11	五井	496,000円	4,000円	48,000円	432,000円	8,090円
12	市原	448,044円	0円	0円	0円	0円

【社会福祉基金 活用額】

拠点改修費合計：2,014,044円（5地区）

拠点賃借料等合計：180,000円（4地区）

拠点維持管理経費合計：1,073,112円（9地区）

(ウ) 地区社協事務局運営経費【再掲】

地区社協の組織力や運営基盤の強化を図るため、事務局運営経費を交付した。

助成団体	助成金額	備考
地区社協	160,000円×12地区=1,920,000円	1地区年額160,000円

(エ) 地区社協車両貸与事業【再掲】

地区社協の生活課題を抱える地域住民への生活支援体制と充実強化に資するため車両の貸与（リース）を行った。

地区名	車両リース代	備考
辰巳台	198,000円 (16,500円/月×12回)	日常生活支援事業コーディネイト業務として
有秋	122,430円 (17,490円/月×7回)	日常生活支援事業コーディネイト業務として

成果	各種会議や事業等に地区担当職員が積極的に参加し、地域福祉活動の実践に関する相談や必要な情報提供を行うことで、地域特性を踏まえた活動の促進につながった。また市担当課と本会との間で事業活動や活動拠点の財政支援の協議を行ったことで、新たな補助金の確保と事務局拠点の整備が図れた。
課題・方向性	引き続き、住民に身近な範囲における地域課題、ニーズに基づく地域福祉活動が安定的に展開できるよう、今後も財政支援や地区担当職員による継続的な支援を行っていく。

④地区社協連絡会の開催

地区社協活動に関する情報交換、連絡調整及び調査研究等を行うことを目的として、次のとおり地区社協連絡会を開催した。

項目	期日	議題
第1回 地区社協連絡会	5月21日	【会議】 ・協議事項 (1) 市原市社会福祉協議会評議員候補者の選出について (2) 地区社会福祉協議会推進事業補助金交付要綱(案)について (3) 地区社協車両貸与事業実施要綱の一部改正について (4) 令和6年度よつばちゃんのフードパントリーの実施(案)について (5) 令和6年度地区社協連絡会の開催予定について ・報告事項 (1) お互いさまの地域づくり事業実施要領について (2) 地区社会福祉協議会助成金交付基準に基づく令和6年度地区社会福祉協議会補助金積算額について ・その他 (1) 日常生活支援事業における作業ゴミの搬入について
第2回 地区社協連絡会	7月30日	【会議】 ・協議事項 (1) 令和6年度歳末たすけあい運動協力事業について (2) 令和6年度市原市地域福祉関係者合同研修会について (3) いちはら地域連携型相談支援事業研修会について ・報告事項 (1) 地区社会福祉協議会推進事業補助金交付要綱について (2) 地区社会福祉協議会助成金交付基準について (3) 地区社協車両貸与事業実施要綱の一部改正について (4) 市原市社会福祉協議会事業継続計画(BCP)について(別紙) 【意見交換会】 事務局拠点の活用について
第3回 地区社協連絡会	9月24日	【会議】 ・協議事項 (1) 令和6年度歳末たすけあい運動協力事業について (2) 令和6年度地域福祉支援事業について

		(3) 令和6年度よつばちゃんのフードパントリーの実施について (4) 地区社会福祉協議会推進事業補助金 拠点維持管理経費の有効活用について ・行政説明 地域福祉計画の改訂に伴う地域別の意見交換について 【意見交換会】 事務局拠点の活用について
第4回 地区社協連絡会	11月26日	【会議】 ・協議事項 (1) 地区社会福祉協議会運営費補助金交付要綱及び先駆的・開拓的 補助金交付要綱制定の考え方について (2) 第6次市原地域福祉活動計画及び第2次地区行動計画の改訂 スケジュールについて(別紙) ・その他 地区社協事業等の広告活動における注意点について 【実践発表】 日常生活支援事業の取組状況について(国分寺台、姉崎、南総、加茂)
第5回 地区社協連絡会	1月30日	【会議】 ・協議事項 (1) 地区社会福祉協議会推進事業補助金に係る地区社協予算・決算等 の取扱いについて (2) 地区社会福祉協議会運営費補助金交付要綱(案)及び先駆的・開拓 的補助金交付要綱(案)について (3) 第7次市原市地域福祉活動計画について ・報告事項 (1) 市原市社会福祉協議会評議員候補者の推薦について (2) 令和6年度歳末たすけあい運動協力事業の実施報告について (3) 令和6年度よつばちゃんのフードパントリーの実施報告について 【意見交換会】 地域福祉活動における担い手の確保について
第6回 地区社協連絡会	3月14日	【会議】 ・協議事項 (1) 令和7年度地区社会福祉協議会補助金積算額(案)について (2) 第2次地区行動計画の改定について (3) 令和7年度地区社協連絡会の開催予定について 【意見交換会】 地域福祉活動における担い手の確保について

成果	第6次活動計画に基づく施策や地区社協運営に関する諸課題(人材の確保など)をテーマにグループワークを行い、成功事例の報告や対応方策などの活発な議論がなされた。
課題・方向性	今後も活動計画の施策の着実な推進に向けた情報共有や理解を深める機会として開催するとともに、活動上の諸課題を引き出し解決方策などの意見交換を行うことで、その後の施策に反映できるような「ボトムアップ型」の会議となるような会議運営に努める。

(2) 小域福祉ネットワークの活動・運営支援

小域福祉ネットワークで行われる会議に地区担当職員が参加し、必要な情報提供、助言、アドバイスを
 行う等積極的な支援に取り組んだ。

①小域福祉ネットワーク一覧

地区名	校区名	ネットワーク名	設置年月日	安心生活見守り支援事業
辰巳台	辰巳台東小学校区	辰巳福祉ネットワーク	昭和63年6月26日	○
	辰巳台西小学校区			
	白幡小学校区			
市津	旧市東第二小学校区	市東第二小区小域福祉ネットワーク	平成24年10月3日	○

	湿津小学校区	湿津小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 11 月 27 日	○
	市東第一小学校区	市東第一小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 11 月 28 日	○
ちはら台	水の江小学校区	水の江小学校区小域福祉ネットワーク	平成 18 年 7 月 15 日	○
	清水谷小学校区	清水谷小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 12 月 1 日	○
	牧園小学校区	牧園小学校区小域福祉ネットワーク	平成 22 年 11 月 1 日	○
	ちはら台桜小学校区	ちはら台桜小学校区小域福祉ネットワーク	平成 24 年 3 月 30 日	○
国分寺台	国分寺台西小学校区	国分寺台西小学校区ふれあいネットワーク	平成 19 年 2 月 24 日	○
	国分寺台小学校区	国分寺台小学校区ふれんどネットワーク	平成 22 年 2 月 19 日	○
	国分寺台東小学校区	国分寺台東小学校区思いやりネットワーク	平成 24 年 10 月 30 日	
姉崎	姉崎小学校区	姉崎小学校区小域福祉ネットワーク	平成 19 年 2 月 21 日	○
	明神小学校区	明神小学校区小域福祉ネットワーク	平成 21 年 4 月 25 日	○
	青葉台小学校区	青葉台小学校区小域福祉ネットワーク	平成 22 年 8 月 1 日	○
有秋	有秋南小学校区	有秋南小学校区安心安全ネットワーク	平成 24 年 1 月 23 日	○
	有秋西小学校区	有秋西小学校区小域福祉ネットワーク	平成 24 年 3 月 14 日	
	有秋東小学校区	有秋東小学校区福祉ネットワーク	平成 24 年 3 月 21 日	○
三和	市西小学校区	市西小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 8 月 2 日	○
	海上小学校区	海上小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 8 月 2 日	○
	養老小学校区	養老小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 8 月 2 日	○
	光風台小学校区	光風台小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 8 月 2 日	○
南総	牛久小学校区	牛久小学校区小域福祉ネットワーク	平成 19 年 1 月 26 日	○
	旧内田小学校区	内田地区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 1 月 22 日	○
	寺谷小学校区	寺谷小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 2 月 21 日	○
	旧平三小学校区	平三地区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 6 月 20 日	○
	鶴舞小学校区	鶴舞地区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 7 月 8 日	○
	戸田小学校区	戸田小学校区小域福祉ネットワーク	平成 21 年 2 月 28 日	○
加茂	旧白鳥小学校区	白鳥地区小域福祉ネットワーク	平成 26 年 2 月 22 日	○
	旧富山小学校区	富山地区小域福祉ネットワーク	平成 26 年 2 月 23 日	○
	旧高滝小学校区	高滝地区小域福祉ネットワーク	平成 26 年 2 月 25 日	○
	旧里見小学校区	里見地区小域福祉ネットワーク	平成 26 年 3 月 24 日	○
五井	白金小学校区	白金小学校区スマイルネットワーク	平成 24 年 3 月 24 日	○
	若葉小学校区	わかば福祉ネットワーク	平成 24 年 4 月 12 日	○
	千種小学校区	千種小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 4 月 20 日	○
	東海小学校区	東海小・中学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 5 月 26 日	○
	国府小学校区	国府小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 10 月 9 日	○
	五井小学校区	五井福祉ネットワーク	平成 29 年 12 月 9 日	○
	京葉小学校区	京葉福祉ネットワーク	平成 31 年 2 月 24 日	○
市原	若宮小学校区	若宮小学校区まんまるネットワーク	平成 22 年 5 月 22 日	○
	石塚小学校区	石塚小学校区小域福祉ネットワーク	平成 24 年 3 月 25 日	○

	五所小学校区	五所小学校区小域福祉ネットワーク	平成 24 年 7 月 1 日	○
	菊間小学校区	菊間小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 3 月 2 日	○
	八幡小学校区	八幡小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 7 月 14 日	○
	市原小学校区	市原小学校区小域ネットワーク	平成 30 年 6 月 2 日	○
4 4 団体（4 6 学校区）			実施 4 2 団体 （4 3 校区）	

②小域福祉ネットワークにおける各会議体の実施概要

年度	開催日数	延参加人数
R6 年度	353 日	4,966 名
R5 年度	359 日	5,093 名
増減	△6 日	△127 名

成果	各種会議や事業等に地区担当職員が積極的に参加し、地域福祉活動の実践に関する相談や必要な情報提供を行うことで、地域特性を踏まえた活動の促進につながった。
課題・方向性	引き続き、住民に身近な範囲における地域課題、ニーズに基づく地域福祉活動が安定的に展開できるように、今後も地区担当職員による継続的な支援を行っていく。

③いちほら小域福祉ネットワーク連絡会議の開催

小域福祉ネットワークの更なる推進を図るため、組織間の連携体制を構築するとともに、併せて市全域の地域福祉推進の在り方について検討・協議することを目的に次のとおり開催した。

項目	期日	議題
第 1 回いちほら小域福祉ネットワーク連絡会議	10 月 8 日	【講習】 ・レクリエーション支援の方法について 講師：千葉県レクリエーション指導者クラブ市原支部 代表 茂木きよ子氏 【全体会】 ・意見交換（グループワーク）
第 2 回いちほら小域福祉ネットワーク連絡会議	2 月 18 日	【実践発表】 ・フードパントリー活動について 千種小学校区小域福祉ネットワーク ・制服リユース活動について 市東第一小学校区小域福祉ネットワーク ・買い物支援活動について 青葉台小域福祉ネットワーク 【全体会】 ・意見交換（グループワーク）

成果	第 6 次活動計画に基づく共生型サロンなどの普及や取組内容の活性化を図るために「気軽に取り組めるレクリエーション」をテーマに体験や意見交換を行い、今後の取組を後押しする機会となった。また、地域の様々な課題を把握し、その解決に向けて取組の具現化を図った成功事例に基づく実践報告を行うことで、改めてネットワーク活動の役割や必要な視点について理解を深めることができた。
課題・方向性	各ネットワークが地域課題の解決に向けた自発的な取り組みが実践できるように、成功事例などを用いた講義や実践報告、また、グループワークなどを通じ活動上の諸課題などの意見交換を行い、より発展的な活動につながるような会議運営に努める。

(3) 地域福祉関係者合同研修会の開催

「地域共生社会」の実現に向けた地域福祉の推進を図るために、支援を必要とする住民（世帯）が抱える多様で、複合的な地域生活課題について、地域福祉関係者の共通理解・共通認識を図ることを目的に次のとおり開催した。

期日	令和6年9月19日（木）
場所	市原市市民会館 大ホール
参加者	506名
内容	【講演】「人と人、人と社会がつながる地域の居場所」 講師：立命館大学 共通教育推進機構 准教授 小辻 寿規 氏

成果	令和6年4月に施行された「孤独・孤立対策推進法」を学ぶとともに、本対策の重要なテーマの一つである「居場所」について、その役割や機能を考える機会となった。
課題・方向性	地域共生社会の実現に向け、地域に期待される役割が大きいことから、地域福祉を取り巻く環境や動向の注視と、地域に顕在化・潜在化する課題についての共通理解・共通認識を図りながら、地域福祉関係者の意識醸成、地域福祉活動の活性化に繋がるような機会の企画に努める。

地域のつながりを豊かにするための仕組みづくり【共創】

1. 地域で孤立させない取組の強化

(1) 寄り添い支えていく体制の強化

①新たな相談支援体制の構築【いちほら地域連携型相談支援事業】

住民が抱える生活課題の複雑多様化や潜在的ニーズの掘り起こしの必要性に伴い、市社協の強みである地域の繋がりを活用し、地域と連携・密着した相談支援事業を新たに展開する。

(ア) 市社協窓口相談

年度	生計	職業生業	教育子育て	障がい	療養健康	生活	償還	その他	合計
R6年度	276件	1件	165件	3件	0件	9件	41件	1件	496件
R5年度	282件	4件	180件	8件	3件	21件	53件	15件	566件
増減	△6件	△3件	△15件	△5件	△3件	△18件	△12件	△14件	△70件

(イ) 各地区における相談事業

地域住民が気軽にできる窓口であり、市社協や関係機関等へのつなぎ役・橋渡し役を担う相談支援事業を行った。

地区	開催日数	延相談人数	延支援者数	内容等
辰巳台	24日	25名	18名	地区社協事業の居場所づくり事業において、相談ブースを設置し「なんでも相談」を実施。月2回
市津	102日	33名	204名	毎週月・水曜日の10時～12時、拠点を活用した相談支援活動を実施（役員2名の輪番）
国分寺台	43日	58名	91名	地区内の様々な問題をサロン開設時や電話、事務所への来所で受付、課題の発見とその解決に向けた事業展開を実施。
ちはら台	243日	28名	334名	地区社協事務所にて相談ブースを設け、週5回、10時～12時に日常生活上の困りごと、助け合い利用相談などを窓口、電話対応等で実施。また、専門機関の協力を得て、月1回「福祉総合相談窓口」を設置。
姉崎	11日	6名	22名	毎月第1水曜日10時～12時に地区社協理事がアネッサ相談室にて実施。
有秋	17日	67名	35名	地域住民の悩み事や困りごとに対し、毎月第2、第4月曜日10時～12時にオアシス有秋にて開設。民生児童委員、地区社協関係者が対応。

三和	10日	15名	136名	子育てサロン開催時に気軽に相談できる場として実施。
南総	60日	20名	82名	南部保健福祉センター相談室において、毎週土曜日13時～15時相談窓口を開設。また、共生型サロン開設時に会場内の一角に相談ブースを設置。
市原	11日	0名	57名	共生型サロン事業の開催時に気軽に相談できる場として実施。
五井	11日	10名	22名	五井公民館において、毎月第1木曜日10時30分～12時で誰でも気軽に相談に来られる場として開設。 イベント会場（五井大市）にて出張相談所を2日間開設。
加茂	365日	175名	60名	地区内の社会福祉法人と連携し、施設内に誰でも相談できる窓口を設置。
千種	10日	7名	40名	地域住民の困りごとに対し、毎月第1水曜日10時～12時に地区社協拠点にて気軽に相談することのできる相談室を開設。民生児童委員、地区社協関係者が対応。また、共生型サロン、フードパントリー等の事業実施時に相談室を併設。

年度	開催地区	開催日数	延相談者数	延支援者数
R6年度	12地区	907日	444名	1,101名
R5年度	11地区	939日	750名	1,168名
増減	1地区	△32日	△306名	△67名

(ウ) いちはら地域連携型相談支援事業研修会の開催

地域共生社会の実現を目指し、市社協と地区社協が連携して「いはら地域連携型相談支援事業」を推進。住民の生活課題の解決に向け、潜在的なニーズの発掘や課題の深刻化防止に取り組み、その共通理解を深め普及を促進することを目的に次の通り開催した。

項目	期日	議題
いはら地域連携型相談支援事業研修会	8月27日	【講義】 気づく・つなぐ・見守るための相談支援活動の展開に向けて 講師：千葉県社会福祉協議会 地域福祉推進部部長 会田 肇 氏 【情報交換会】 新たな相談活動の展開に向けて ・意見交換（グループワーク）

成果	本会の相談窓口では、経済的な課題を抱える世帯に、生活福祉資金貸付（緊急小口資金等）の相談を切り口とし、専門機関等と連携しながら生活の改善に向けた支援に努めた。地域での相談支援活動では、住民に身近な場における困りごと相談の実施や地域の関連団体とのつながりを活かし、住民の異変に早期に「気づく」、必要な支援に「つなぐ」、その後の生活を緩やかに「見守る」一連の相談プロセスに基づく地域密着型の相談支援活動の展開を図りました。また、複数の地区で課題のある事例を個別に検討する「ケース」会議を試行的に実施しました。
課題・方向性	地域関係者間で一連の相談プロセスの理解促進と取組を定着させていくとともに、効果的な展開を図るための関係者向けの研修開催や取組の活性化に向けた地区担当職員による継続的な支援に努める。

② 民生委員・児童委員活動の支援

市原市民生委員児童委員協議会の事務局として、その活動の推進を図った。

期日		事業名	人数	場所
月	日			
4	16	市民児協会計監査	5名	市社協

	17	新任民生委員児童委員研修会	3名	千葉市文化センター
	19	市民児協第1回正副会長・部会長会議	5名	市社協
	24	市民児協第1回理事会	16名	市社協
	24	市民児協代議員会	38名	市社協
5	5～11	児童福祉週間	全委員	市内各地
	12～18	「民生委員・児童委員の日」活動強化週間	全委員	市内各地
	27	県民児協第1回評議員会	1名	千葉県社会福祉センター
6	27	市民児協第2回正副会長・部会長会議	5名	市社協
7	19	市民児協第1回地域福祉推進部会	20名	市社協
	25	六市民児協会長・副会長研修会	3名	千葉市
	29	市民児協第1回主任児童委員部会	21名	市社協
8	23	新任民生委員児童委員研修会	7名	千葉県社会福祉センター
	27	市民児協第3回正副会長・部会長会議	4名	市社協
9	19	市民児協全体研修会	310名	市原市市民会館
	27	中堅民生委員児童委員研修会	79名	君津市民文化ホール
10	7	事例検討研修会	24名	千葉市民会館
	18	市民児協第2回地域福祉推進部会	23名	市社協
	31	市民児協第2回主任児童委員部会	20名	市社協
11	14	第74回千葉県社会福祉大会	9名	青葉の森芸術文化ホール
	19～21	第93回全国民生委員児童委員大会	1名	宮崎市
	25	単位民児協会長研修会	10名	千葉市民会館
	28	市民児協第4回正副会長・部会長会議	4名	市社協
12	6	市民児協第2回理事会	13名	市社協
	6	市民児協理事研修会	13名	千葉市民会館
	17	新任民生委員児童委員研修会	2名	千葉県社会福祉センター
2	12	相談技法研修会	11名	千葉県社会福祉センター
	19	市民児協第3回主任児童委員部会	20名	市社協
	21	市民児協第3回地域福祉推進部会	21名	市社協
3	19	主任児童委員研修会	14名	千葉市民会館
	22	県民児協第2回評議員会	1名	千葉県社会福祉センター
	27	市民児協第5回正副・部会長会議	5名	市社協
	27	市民児協合同部会	34名	市社協

成果	地域福祉推進部会と主任児童委員部会で検討してきた相談支援体制の充実強化に向けて構築した各地区民児協単位のチーム・班体制の活性化に努めた。定例会議では、各地区で事例を用いたケース検討の場を設け、相談対応の手法や必要な視点など活発な意見交換を行うとともに、委員の資質向上や新任委員などへのフォローアップにつながった。また、相談の入り口を拡充するため主任児童委員部会では、地域における放課後児童クラブや子どもの居場所へアプローチを行い顔の見える関係づくりに努めた。
課題・方向性	引き続き、各地区で構築したチーム・班体制の運用と定例会議における相談ケースの検討を着実に推進できるよう、部会等において進捗状況を定期的に共有するとともに、地区担当職員による各地区での活性化支援に取り組むこととする。

③安心生活見守り支援事業

一人暮らし高齢者や障がい者世帯、高齢者のみ世帯等の社会的な孤立を防ぐために、定期的な見守り・声かけを行う安心生活見守り支援事業を実施した。

【地区別実績】

地区	見守り希望者数	訪問員数	延訪問回数
辰巳台	33名	55名	464回
市津	21名	59名	498回
ちはら台	14名	24名	535回
国分寺台	42名	39名	568回
姉崎	147名	169名	1,893回
有秋	15名	30名	228回
三和	115名	89名	2,030回
南総	154名	147名	2,134回
加茂	51名	89名	755回
五井	132名	138名	1,684回
市原	266名	152名	5,162回
千種	8名	6名	108回

年度	実施数	見守り希望者数	安心訪問員数	延訪問回数
R6年度	41 ネットワーク (43 小学校区)	998名	997名	16,059回
R5年度	41 ネットワーク (43 小学校区)	1,095名	1,010名	16,843回
増減	—	△97名	△13名	△784回

成果	定期的に一人暮らし高齢者、高齢者世帯を中心に安心訪問員による声掛け・安否確認、防犯情報の提供等を通じた見守り訪問活動を実施し、対象者に安心感をもたらすとともに、孤立防止に向けた一助を担うことができた。
課題・方向性	支援が必要な方が支援につながるよう地域の関係者と連携した対象者の掘り起しの強化とともに、引き続き、訪問員の役割・視点の理解・浸透を図るために、各地域でのフォローアップ研修や本会主催の交流会を実施し取組の充実に努めていく。

④地域福祉支援事業

歳末たすけあい運動の財源を活用し、歳末の時期に地区社協や小域福祉ネットワークが行う先駆的な地域福祉活動の普及促進に向けた助成を行った。

内容	事業実績 (R6 年度)	R5 年度	前年度比較
地域福祉支援事業	導入型：120,000 円 (3 団体) 交流型：1,380,000 円 (24 団体) 個別 (訪問) 支援型：775,000 円 (13 団体) 合 計：2,275,000 円 (40 団体)	1,982,000 円	293,000 円

成果	身近な地域での住民同士の交流、災害対策、個別支援などの取組みが展開され、前年比 3 団体増の 40 団体へ助成金を交付し事業の活性化につながった。
課題・方向性	全地区での実施に向け地区社協・小域福祉ネットワークの関係者へ理解促進に努めるとともに、実践した取組が日頃の地域福祉活動として発展的に展開されるよう、企画の段階から積極的に地区担当職員が関わり助言等を通じた支援に努めていく。

⑤地域主体の子どもの見守り強化事業

ちはら台地区、千種地区において満 2 歳から学齢前の未就学児を養育している家庭に対し、地域の協力者による戸別訪問などを通じ、子どもや家庭の状況を地域でゆるやかに見守る活動を実施した。

地区	延活動者数	訪問家庭数	延訪問回数
ちはら台地区	77 名	14 世帯	50 回
千種地区	89 名	14 世帯	46 回

成果	今年度から新たに千種地区でも取組みが開始され、行政から提供された情報のもと対象世帯を戸別訪問し未就学児の状況を確認するとともに、地域イベントやサロン活動などの情報提供を行うことで、地域と子育て世帯の交流が生まれ、地域で主体的・継続的に子どもを見守る体制の強化を図った。
課題・方向性	子育て世帯に対し孤立・孤独感を抱かせない取組みを継続するとともに、地域全体で子どもをゆるやかに見守る体制の構築に取り組む。

(2) 生活を支えるための体制の強化

①生活支援体制整備事業の推進

高齢者を地域全体で支える「地域包括ケアシステム」の構築に向け、その調整役を担う「第 1 層、第 2 層生活支援コーディネーター (SC)」と地区社協圏域の「第 2 層協議体」との連携・協働による「生活支援サービス等」の仕組みづくりに向けた検討に努めた。

<第 2 層協議体・SC 活動実績>

	協議項目	辰巳	市津	ちはら台	国分寺台	姉崎	有秋	千種	三和	南総	加茂	五井	市原
地域アセスメント	地域資源把握 (資源調査・一覧更新)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	生活課題・ニーズ把握 (アンケート調査等)		○						○		○		○
	生活課題・ニーズ把握 (個別ケースの検討等)				○	○		○		○		○	○
地域で必要な仕組みづくり	見守りから生活支援 (緩やかな見守り体制構築)	○			○					○	○	○	○
	資源マッチング (マッチング会議、便利帳等)	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
	住民互助の生活支援 (ゴミ出し、買い物、屋内外支援、移動等)	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	
	交流の場から生活支援 (居場所等での生活支援)					○							

	臨時特例つなぎ資金	0 件	0 件	0 件	0 円
	合計	256 件	170 件	161 件	42,789,700 円
前年度比較増減		△37 件	△41 件	△38 件	△14,913,300 円

(イ) 療養資金貸付事業（市受託事業）

高額な療養費の支払いが困難な世帯に対し、療養費の支払いに必要な資金の貸付を実施した。

年度	相談件数	申請		貸付	
		件数	金額	件数	金額
R6 年度	3 件	3 件	276,000 円	3 件	276,000 円
R5 年度	3 件	2 件	280,000 円	2 件	280,000 円
増減	0 件	1 件	△4,000 円	1 件	△4,000 円

(ウ) 福祉資金貸付事業（自主事業）

市内に居住する低所得世帯を対象に、生活の安定や自立更生に向けた必要な助言指導を行うとともに、生活のつなぎ及び応急的な生活資金の貸付を実施した。

年度	資金種類	相談件数	申請件数	貸付	
				件数	金額
R6 年度	応急生活費	7 件	6 件	5 件	62,000 円
R5 年度	応急生活費	5 件	3 件	3 件	37,000 円
前年度比較増減		2 件	3 件	2 件	25,000 円

(エ) 応急法外援護（自主事業）

低所得で不測の事態に陥り、緊急な法外援護が必要な方に対し少額の資金を交付した。

R6 年度		R5 年度		前年度比較増減	
件数	金額	件数	金額	件数	金額
32 件	81,930 円	67 件	183,770 円	△35 件	△101,840 円

成果	経済的な課題を抱える世帯に対し、家計の改善や安定した生活に向けた必要な資金を貸付することで、世帯の自立に向けた一助となった。また、本会が実施している「いちほらフードネット」と連携した現物給付により、金銭のみならず生活の状況に応じた支援を行うことができた。
課題・方向性	金銭による一時的（応急的）な援助に留まり、課題の根本的な解決に至らないケースもあることから、初期相談から主訴を見極め、必要に応じて適切な専門機関と連携した支援の強化を図る必要がある。

(オ) 特例貸付債権管理事業

新型コロナウイルス感染症の影響に伴う特例措置である緊急小口資金等特例貸付を利用した借受人に対し、市内の専門機関や地域関係者と連携し、借受人が自立した生活を営むことができるよう個別の状況に応じた償還指導や生活再建に向けたフォローアップ支援を行った。

種別	R6 年度	R5 年度	内容	
相談受付	受電相談	181 件	156 件	借受人から受電し、受付した相談件数
	来局相談	73 件	35 件	借受人が来局し、受付した相談件数
アウトリーチ	架電相談	469 件	277 件	市社協から架電し、対応した相談件数
	訪問回数	454 件	305 件	借受人宅を訪問した回数
	訪問相談	77 件	57 件	借受人宅を訪問し、対応した相談件数

※生活状況の実態把握を通じ、償還方法の検討及び必要な支援に関する情報提供やつなぎなどを行った。

成 果	償還が滞る借受人を中心に、積極的に電話や訪問等によるアウトリーチを行い、個々の生活状況に応じた償還方法の再考や家計・生活改善に向けた助言、必要な支援へのつなぎなど、フォローアップに係る支援を行った。
課題・方向性	居所不明などアプローチが困難な借受人に対し県社協と連携した所在確認を進めるとともに、継続的に電話や訪問等によるアウトリーチを実施し、支援が必要な借受人の掘り起しや支援へのつなぎなど、フォローアップ支援の更なる強化を図っていく必要がある。

③日常生活支援事業

公的制度や民間サービスで補えない住民の日常生活上の生活課題を解決するために、住民相互による支え合い・助け合いの活動を行った。

(ア) 住民参加型在宅福祉サービス

日常生活上のちょっとした困りごとの解決に取り組む住民相互の生活支援サービス等の個別支援活動を行った。

地 区	活動件数	延利用者数	延支援者数	内 容 等
辰巳台	1,086 件	1,086 名	1,411 名	地区内に居住する高齢者や障がい者、その他日常生活に手助けを必要とする人たちに対して、日常支援、子育て支援等の有償サービスを提供。 【名称：たすけあい辰巳ねこの手】
市津	164 件	164 名	412 名	地区内に居住する一人暮らし高齢者や高齢者世帯、障がい者世帯に対して、家事作業、屋外作業等の有償サービスを提供。 【名称：市津まごの手】
ちはら台	276 件	276 名	298 名	地区内に居住する日常生活に手助けを必要とする人たちに対して、家事支援、付添支援等の有償サービスを提供。 【名称：たすけあい隊】
国分寺台	4 件	4 名	15 名	地区内に居住する高齢者世帯や生活困窮者等で、各関係団体より支援依頼があった人に対して、屋内外の有償サービスを提供。
姉崎	101 件	101 名	110 名	地区内に居住する高齢者世帯や生活困窮者等で、各関係団体より支援依頼があった人に対して、家事作業、屋外作業等の有償サービスを提供。 【名称：姉崎チョコっとサービス】
有秋	190 件	190 名	488 名	地区内に居住する一人暮らし高齢者や高齢者世帯、障がい者世帯に対して、家事作業、屋外作業等の有償サービスを提供。今後地区内に活動を広めていく。 【名称：くらしのささえあい】
三和	373 件	373 名	529 名	地区内に居住する一人暮らし高齢者や高齢者世帯、障がい者世帯に対して、家事作業、屋外作業等の有償サービスを提供。 【名称：たすけあい三和】
南総	6 件	6 名	14 名	地区内に居住する高齢者世帯や生活困窮者等で、各関係団体より支援依頼があった人に対して、家事作業、屋外作業等の有償サービスを提供。 【名称：ささえあい南総】
加茂	27 件	27 名	73 名	地区内（白鳥地区）に居住する一人暮らし高齢者や高齢者世帯、障がい者世帯に対して、家事作業、屋外作業等の有償サービスを提供。 【名称：草刈り助け合い作業活動】

年度	実施地区	活動件数	延利用者数	延支援者数
R6 年度	9 地区	2,227 件	2,227 名	3,350 名
R5 年度	9 地区	2,012 件	2,165 名	3,699 名
増減	0 地区	215 件	62 名	△349 名

(イ) 事業化・活性化推進サービス

住民参加型在宅福祉サービスにつなげるための取り掛かりとして部分的に支援する活動を行った。

地区	開設日数	延利用者数	延支援者数	内容等
辰巳台	24日	227名	24名	高齢者を主な対象として、社会福祉施設（辰巳萬緑苑）の協力を得て月2回買い物ツアーを実施。
市津	24日	560名	138名	65歳以上の一人暮らし高齢者、65歳以上で構成される世帯、自力での買い物に困難を抱える方を対象として、社会福祉施設（清流園、グリーンホーム）の協力を得て月2回買い物ツアーを実施。
有秋	67日	503名	133名	65歳以上の一人暮らし高齢者、障がい者で自力での買い物に困難を抱える方を対象として、社会福祉施設（グランモア和光苑）の協力を得て月1回買い物ツアーを実施。また、泉台地域を対象に高齢者の生きがいづくりを目的としてスマホの使い方相談を実施。
三和	42日	338名	127名	光風台、市西、海上地域で70歳以上の高齢者のみの世帯を対象として、社会福祉施設（向日葵、あじさい苑、グリーンライフ・ネクステ）の協力を得て買い物ツアーを実施。
姉崎	11日	91名	22名	青葉台地域で、自力での買い物に困難を抱える方を対象として、社会福祉施設（和気あいあい）の協力を得て月1回買い物ツアーを実施。

年度	実施地区	開設日数	延利用者数	延支援者数
R6年度	5地区	168日	1,719名	444名
R5年度	5地区	106日	1,139名	303名
増減	0地区	62日	580名	141名

成果	住民参加型在宅福祉サービスでは、地域ニーズ等を踏まえ9地区で事業展開がなされ、新たに五井地区での仕組みづくりの検討が始まった。事業化・活性化サービスにおいては、5地区で社会福祉法人と連携し買い物ツアー実施した。
課題・方向性	市内全域での取組の拡充を目指し地域ニーズ等の把握や地区担当職員による推進方策の提案を行うとともに、本会主催の事業交流会を通じた取組の活性化支援に努める。また、継続的・安定的な活動資金を確保するため市原市補助金（住民主体訪問型サービス補助金）の活用を促進していく。

④ファミリー・サポート・センター事業

公的な子育てサービスで対応できない短時間の預かり等、住民相互（協会員、利用会員）による援助活動を通じた子育て環境（仕事と育児の両立）を支援するため、いちばらファミリー・サポート・センター事業を実施した。

年度	相談件数（延数）	利用会員登録者数	協会員登録者数	両方会員登録者数
R6年度	71件	279名	69名	27名
R5年度	86件	285名	66名	29名
増減	△15件	△6名	3名	△2名

【活動状況】

（令和7年3月31日現在）

活動内容	月												R6度	R5度	増減
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
保育所・幼稚園の登園前の預かり	1	1	0	4	1	12	11	4	3	6	5	3	51件	6件	45件
保育所・幼稚園の送り	1	1	0	10	10	18	20	12	9	6	5	3	95件	27件	68件
保育所・幼稚園の迎え	0	0	0	5	0	1	0	0	1	1	0	0	8件	116件	△108件
保育所・幼稚園の帰宅後の預かり	0	3	2	6	0	4	8	8	8	4	5	3	51件	7件	44件
学童の放課後の預かり	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	0件	0件
放課後児童クラブの迎え	5	0	0	0	2	2	2	2	2	2	0	0	17件	23件	△6件

放課後児童クラブ終了後の預かり	2	0	0	0	2	2	2	2	2	2	0	0	14件	24件	△10件
子どもの習い事等の場合の援助	18	20	16	13	3	12	15	12	10	8	6	7	140件	231件	△91件
保育所・学校等休み時の援助	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3件	0件	3件
保育所等入所前の援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	0件	0件
保護者等の短時間・臨時的就労の場合の援助	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5件	0件	5件
保護者等の求職活動中の援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	6件	△6件
保護者等の冠婚葬祭による外出、他の子どもの学校行事の場合の援助	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	4件	2件	2件
保護者等の外出の場合の援助	2	1	2	2	1	2	1	1	0	2	4	4	22件	5件	17件
保護者等の病気、その他急用の場合の援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	0件	0件
小学校登校前の預かり	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	2件	△2件
小学校の送り	8	5	0	2	0	3	3	0	0	0	0	0	21件	25件	△4件
小学校の迎え	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	0件	0件
小学校登校前の利用会員宅への迎え	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	2件	△2件
その他	13	11	21	13	10	14	11	10	6	13	14	18	154件	96件	58件
合計	55	42	41	55	29	70	73	52	44	45	40	39	585件	572件	13件

成果	複雑な家庭の事情を抱える利用ケースが増え、市担当課と調整のもと可能な範囲での援助活動を実施した。利用促進のための広報活動や協力会員の確保に向けて、市民大学での講義、市担当課と連携した養成講座を実施した。また、協力会員のつながりやスキルアップを図るための研修交流会を実施し活動意欲の助長につながった。また、出産前後家事等サポート事業と相互に連携し切れ目のない支援を行うことができた。
課題・方向性	協力会員数は地区によって偏りがあり、利用会員の支援ニーズに対応できないケースもある。引き続き SNS や広報用動画の活用や、市担当課と連携しながら幅広い年齢層への事業周知と協力会員の確保に努める。 また、複雑な支援ケースに備え、市担当課と定期的な連絡調整を図っていく必要がある。

⑤ 出産前後家事等サポート事業

妊娠中や出産前後の不安定な時期に、家事または育児支援等を必要とする家庭に、ホームヘルパーを派遣し、子育てしやすい環境づくりに向けたコーディネート業務を展開した。

年度	相談件数（延数）	利用者数（実人数）	利用回数（延数）	利用時間（延時間）
R6年度	55件	176名	526回	1,024時間
R5年度	49件	113名	347回	683時間
増減	6件	63名	179回	341時間

【活動状況】

（令和7年3月31日現在）

活動内容	月												R6年度	R5年度	増減	
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
家事援助	食事の準備・後片付け	32	35	14	24	17	15	18	26	35	45	45	53	359件	266件	93件
	衣類の洗濯・補修	13	11	9	12	7	9	11	5	9	7	12	8	113件	110件	3件
	居室等の掃除・整理整頓	25	19	17	28	23	19	17	14	19	26	31	27	265件	215件	50件
	生活必需品の買い物	1	4	2	3	0	2	0	0	4	0	0	2	18件	21件	△3件
	関係機関との連絡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	1件	△1件
	その他必要な家事援助	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1件	12件	△11件

<第2回>

期 日	3月1日(土)
場 所	市原市南部保健福祉センター 第1会議室
参加者	南総地区の住民3名、南総地区社協関係者8名
内 容	【説明】送迎ボランティアサービス事業について 説明：市原市社会福祉協議会 職員 【体験談及び交流】送迎ボランティア協力者との交流

(ウ) 送迎ボランティア研修会

送迎ボランティアサービス事業を行うにあたり、協力者の活動をよりスムーズに行えるよう資質向上を目指すことを目的として実施。

期 日	1月16日(木)
場 所	ダイハツ千葉販売(株)市原店
参加者	送迎ボランティアサービス事業協力会員 17名
内 容	【講義・体験】「健康安全運転講座」 サポカー体験、運転姿勢の確認、死角の確認等 講師：ダイハツ千葉販売(株)職員 他 【情報交換】「協力者間の交流会」

成 果	送迎ボランティア養成講座は、市域での開催の他、車両を配置する南総地区において地区社協との共催で実施し、新規協力者7名の確保に繋がり、事業全体で310件の支援を実施することが出来た。 また、安全な運行を行うため、車両販売会社と連携した協力会員向けの研修会を開催し、運行前点検や運行中の危険予測に関する講義・体験などを通じた専門的な知識の習得につながった。
課題・方向性	引き続き、事業PRを強化するとともに、車両配置する地区を中心とする地区社協や小域福祉ネットワーク等と連携した養成講座の開催などを検討し新規協力者の確保につなげたい。また、企業と連携し協力会員が安心・安全に活動できる知識を身に付けられるような研修、養成講座を実施していく。

⑦福祉カー貸出事業

心身障がい者(児)、高齢者等の社会参加の促進と福祉の向上を図るため、障がい者、高齢者等及びその家族並びに社会福祉施設等に対し、リフト付きワゴン車の貸出を実施した。

(ア) 利用件数

項 目	月	利用 状況	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	R6年度	R5年度	増減
			件数	件数	件数												
心身障がい者(児) 及びその家族	件数		5	5	5	6	4	6	5	8	4	5	4	4	61件	52件	9件
	日数		11	8	9	13	5	10	7	8	8	5	5	4	93日	79日	14件
高齢者及びその家族	件数		0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1件	11件	△10件
	日数		0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1日	17日	△16日
社会福祉団体及び 社会福祉施設	件数		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1件	0件	1件
	日数		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1日	0日	1日
社会福祉 ボランティア	件数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	0件	0件
	日数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	0件	0日
合 計	件数		6	5	5	6	4	6	6	8	4	5	4	4	63件	63件	0件
	日数		12	8	9	13	5	10	8	8	8	5	5	4	95日	96日	△1日

(イ) 利用内容

項目	内容	利用状況	旅行等	買物等	通院等	行事等	その他	合計
心身障がい者（児）及びその家族	件数	6件	8件	47件	0件	0件	0件	61件
	日数	20日	21日	52日	0日	0日	0日	93日
高齢者及びその家族	件数	0件	1件	0件	0件	0件	0件	1件
	日数	0日	1日	0日	0日	0日	0日	1日
社会福祉団体及び社会福祉施設	件数	0件	0件	0件	1件	0件	0件	1件
	日数	0日	0日	0日	1日	0日	0日	1日
社会福祉ボランティア	件数	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	日数	0日	0日	0日	0日	0日	0日	0日
合計	件数	6件	9件	47件	1件	0件	0件	63件
	日数	20日	22日	52日	1日	0日	0日	95日

成果	市担当課と連携し、利用促進に向けた調整を行うとともに、障がい者、高齢者などの外出を後押しする機会につながった。
課題・方向性	引き続き、利用促進に向けた広報活動に努めるとともに、老朽化する車両への対応について市担当課と調整していく。

⑧ 居宅介護支援事業所の運営

介護保険で要介護と認定された高齢者等に対し、サービス提供事業者、介護保険施設、関係行政機関等と連携を図りながらケアプランを作成し、自立した生活を支援した。

【ケアプラン作成状況】

年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延利用者数	月平均
R6 度利用者	107	107	111	108	111	113	113	116	112	110	110	108	1,326名	110名
R5 度利用者	91	92	93	93	100	100	103	109	102	100	102	106	1,191名	99名
増 減	16	15	18	15	11	13	10	7	10	10	8	2	135名	11名

(ア) 介護予防給付ケアマネジメント業務（受託事業）

市原市内の地域包括支援センターから委託を受け、介護保険で要支援と認定された高齢者等に対し、サービス提供事業者、介護保険施設、関係行政機関等と連携を図りながらケアプランを作成し、自立した生活を支援した。

【ケアプラン作成状況】

年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延利用者数	月平均
R6 度利用者	37	36	39	44	42	43	42	42	42	41	42	42	492名	41名
R5 度利用者	19	19	21	25	27	27	28	28	31	36	38	39	338名	28名

(イ) 要介護認定調査業務（受託業務）

市原市及び他市町村からの委託を受け、介護保険要介護・要支援認定に係る調査業務を行った。

【認定調査状況】

年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延利用者数	月平均
R6 度利用者	7	10	10	8	9	7	11	9	8	5	10	12	106名	9名
R5 度利用者	6	5	4	8	8	5	7	11	7	11	12	7	91名	8名
増 減	1	5	6	0	1	2	4	△2	1	△6	△2	5	15名	1名

成 果	ケアマネジメント業務によるケアプランの作成とサービス調整を行うとともに、業務を通じ把握した複雑な課題を抱える利用者に対し、市（行政）担当課や地域包括支援センター、本会の各部門や地区担当職員などと連携した支援を行った。
課題・方向性	引き続き、利用者の自立支援に努めていくために、市（行政）担当課や地域包括支援センター、専門機関に限らず、本会が運営する事業所として、複雑・複合的な課題に対応できるよう、地域福祉分野との連携をより一層強化していく必要がある。 また、安定的、継続的な事業所運営に向けた人材確保と育成についても強化していく。

2. 地域福祉力の向上

(1) 地区行動計画の推進

①地区行動計画推進委員会の開催

「第6次市原市地域福祉活動計画」（令和3年9月策定）が目指す地域共生社会の実現や目標を共有化し地区社協単位（中域福祉圏域）で策定した「第2次地区行動計画」の実行性を高め、着実に施策や事業を展開するため、地域の福祉活動実践者で構成する「地区行動計画推進委員会」を開催し、取り組みの検証・評価や推進方策の検討を行った。

地区名	名 称	設置日	R6 年度開催回数
姉崎地区	姉崎地区福祉行動計画推進委員会	平成31年1月22日	1回
五井地区	五井地区行動計画推進委員会	平成30年12月12日	1回
市原地区	市原地区行動計画推進委員会 (市原地区第2層協議体)	平成31年3月14日	3回
辰巳台地区	辰巳台地区行動計画推進委員会 (辰巳台地区第2層協議体)	平成30年12月8日	4回
市津地区	市津地区地域福祉行動計画推進委員会 (市津地区第2層協議体)	平成30年11月19日	6回
三和地区	三和地区行動計画推進委員会	平成31年2月19日	1回
南総地区	南総地区行動計画推進委員会 (南総地区第2層協議体)	平成30年11月25日	4回
加茂地区	加茂地区社協役員会・理事会 (地区行動計画推進委員会機能を担う)	平成31年2月24日	1回
有秋地区	有秋地区行動計画推進委員会 (有秋地区第2層協議体)	平成30年4月20日	4回
ちはら台地区	ちはら台地区福祉行動計画推進委員会	平成30年9月30日	1回
国分寺台地区	支え合いのまちづくり計画推進委員会 (国分寺台地区第2層協議体)	平成31年1月20日	2回
千種地区	地区行動計画策定に向けた打合せ実施	—	2回

※「第2層協議体」と機能が混在していることもあり、地区によっては委員を兼務し、両会議を一体的に開催、運営した。（姉崎、五井、三和、加茂、ちはら台地区は推進委員会を単独で開催）

※千種地区は、新設地区のため次年度中に推進委員会設置予定。

※上記の他、全地区で市地域共生社会推進プラン改定に伴う地域づくりワークショップ開催。（11～12月）

成果	各地区で「第2次地区行動計画」に基づく取組を推進するとともに、各地区の「地区行動計画推進委員会」にて、「市地域共生社会推進プラン」や「第6次地域福祉活動計画」との整合を図り改定する現行動計画に関する評価・検証を実施した。評価・検証を通じて「第3次地区行動計画」の策定に向けた課題や方向性の共通理解が図れた。 また、市地域共生社会推進プランの改定に向けたワークショップを各地区で実施し、地域課題の洗い出し、共有に努めた。
----	--

課題・方向性	現行動計画における取組を推進していくとともに、第3次期計画の策定に向けた地区行動計画推進委員会を定期的に開催し議論を進めていく。また、それらの具現化に向けた本会地区担当職員による継続的なサポートに努めていく。
--------	--

(2) 社会福祉法人の公益的な取組との連携

市内の社会福祉法人との連携づくりとして、中域福祉圏ごとに設置している「地区行動推進委員会」や「第2層協議体」への参画を働き掛け、顔の見える関係づくりや地域生活課題の共有を図った

参画法人数	会議への参画数
16 法人	延 55 回

※上記に加え、医療法人1法人が参画されています。

地域で安心して幸せに暮らすための基盤づくり【共生】

1. 地域で活躍する人材の育成

(1) 福祉教育の推進

学校や団体等と連携し、次世代の福祉マインドの醸成や生涯学習のための福祉教育（ボランティア学習）の推進を図るため以下の講座を実施した。

①出前講座

市民に対する福祉教育(生涯学習)の一環とし、市内の学校・機関・企業等からの要請に応じて講座を開催した。

年度	学校関係	公共機関等	福祉施設、団体等	合計
R6 年度	6 回	2 回	3 回	11 回
R5 年度	8 回	3 回	3 回	14 回
増減	△2 回	△1 回	0 回	△3 回

成果	依頼元との事前調整を行い、それぞれの目的や年齢層に応じた出前講座を企画し、運営協力組織、障がい分野の当事者団体、地域福祉関係者、企業からのサポートボランティアなどと連携しながら実施した。 また、福祉の専門的な知識を有する社会福祉法人（高齢者分野）と連携・協働した福祉教育の展開に向けた市高齢者福祉施設連絡協議会との調整協議を行い、方向性の理解を得ることができた。
課題・方向性	福祉教育出前講座の活性化に向け市教育委員会に協力を求め学校等への周知を行うとともに、地区社協と連携したアクティブシニア層への働き掛けや高齢者分野の社会福祉法人へ個別アプローチし、協働による試行的な講座を実施していく。また、地域福祉関係者、企業との連携を図りながらサポートボランティアの確保に努めていく必要がある。

(2) ボランティア活動の推進

①ボランティア活動に関する相談・コーディネート

(ア) ボランティア相談受付、コーディネート

ボランティア活動を行う（行われている）市民、施設・団体などからの活動相談、活動紹介、派遣依頼などのコーディネートを行った。

相談内容	R6 年度	R5 年度	増減
活動希望、活動中の問題に関すること	57 件	38 件	19 件
派遣依頼に関すること	113 件	100 件	13 件
その他（不満、出前講座依頼、事業についての問合せ等）	60 件	57 件	3 件
合 計	230 件	195 件	35 件

(イ) 登録者（団体）の活動実績

ボランティアグループ				個人ボランティア			
活動回数 延参加人数	R6 年度	R5 年度	増減	延参加人数	R6 年度	R5 年度	増減
	10,852 回 50,527 名	11,776 回 51,451 名	△924 回 △924 名		2,874 名	2,378 名	496 名
災害ボランティア				依頼に対する活動状況			
活動回数	R6 年度	R5 年度	増減	件 数 延参加人数	R6 年度	R5 年度	増減
	164 回	131 回	33 回		36 件 167 名	38 件 159 名	△2 件 8 名
成果	ボランティア活動の希望者及び既存の活動者からの相談などに応じ、地域での福祉活動や社会貢献活動へのマッチング・派遣調整、活動の活性化に向けた助言等を行った。						
課題・方向性	新型コロナウイルスの影響や担い手の高齢化などから活動の停滞が続く登録グループも見受けられるため、本会の地区担当職員と連携し、身近な地域で活動できる機会の確保に努めていく。						

② ボランティア活動に関する情報提供

社協ホームページや SNS、ボランティア情報ステーション（市原市社会福祉協議会、市原市姉崎保健福祉センター、市原市三和保健福祉センター、市原市南部保健福祉センター、老人福祉センターに設置）等で市内・外のボランティア活動情報等について、市民へ情報提供を行った。

成果	ホームページや SNS (フェイスブック、エックス、LINE、インスタグラム)、社協だより、市原市情報配信メール等を活用し、広く市民に講座等の最新情報を積極的に提供できた。
課題・方向性	SNS を活用し活動に係るタイムリーな情報発信を積極的に行っていくとともに、事業毎に開催報告を行い、次の参加に繋げていく。

③ ボランティア活動への支援

ボランティア活動の継続性の向上や活性化のため以下の活動支援を行った。

(ア) ボランティア登録・ボランティア保険への加入

ボランティアグループ

年度	登録団体数	登録者数
R6 年度	150 団体	3,500 名
R5 年度	159 団体	3,437 名
増 減	△9 団体	63 名

個人ボランティア

年度	登録者数
R6 年度	156 名
R5 年度	153 名
増 減	3 名

災害ボランティア

年度	登録者数
R6 年度	119 名
R5 年度	102 名
増 減	17 名

登録者以外の保険手続き

年度	団体	個人
R6 年度	91 件	15 件
R5 年度	-	-
増 減	-	-

※窓口にてボランティア活動保険・ボランティア行事用保険・福祉サービス総合補償・送迎サービス補償の加入手続きを行った件数

(イ) ボランティア連絡協議会の事務局

活動者間の横のつながりや連携づくりの機会を提供するため、市原市ボランティア連絡協議会の事務局を担い協議会活動の支援を行った。

事業名	期日	会場	主な内容
総会	5月25日	市原市姉崎保健福祉センター	・令和5年度事業報告(案) ・令和5年度決算報告(案)・監査報告 ・令和6年度事業計画(案) ・令和6年度予算(案)
役員・ES委員親睦会	6月13日	竹・いろりの里	・会員相互の親睦
代表者交流会	9月26日	市原市五井公民館	・各団体自己紹介、抱える課題等について ・今後の情報共有について
会員交流会	11月23日	市原市市民会館	・グループワーク ・おもしろ体操 ・「イチ押し」登録
会報発行	年2回		「いちほらV連協だより」第37号(6月)・第38号(12月) 広報活動
V連協運営事業			市原市V連協の運営に関すること ・役員会 ・監査 ・その他打合せ

成果	<p>新型コロナウイルスの影響もある中で、徐々に活動が再開され登録者数は増加傾向となった。また、活動機会を確保するため、登録グループ及び個人登録者へ地域福祉活動に係る講座等を案内することで、新たな活動の機会につなげるための働き掛けを行った。また、ボランティア連絡協議会の事務局として定例会議等へ職員が参加し、協議会活動の活性化支援を行った。</p>
課題・方向性	<p>活動者の高齢化や担い手不足等により活動の継続が困難な登録グループも見受けられるため、情報提供を積極的に行うとともに、本会地区担当職員と連携し新たな活動場所の確保及び相談・コーディネート強化を図る。</p>

④ボランティアの養成

地域が抱える課題について、様々な機会を捉えて情報の収集を行うとともに、社会や地域ニーズに応じた人材の育成を図るための講座等を開催した。

(ア) 傾聴ボランティア養成講座

相手の心に寄り添って話を聴くことの大切さや、心と耳を傾けて話を聴くために必要な知識と技術を学び、それを活かし活動できる傾聴ボランティアの養成を図ることを目的として実施した。
(協力：傾聴の会ひだまり・傾聴の友やすらぎ・傾聴の会こだま)

期日	6月30日(日)、7月7日(日)、14日(日) [全3回]
場所	市原市社会福祉協議会 3階会議室
参加者	一般市民 41名×3日間
内容	<p>【講義及び演習】傾聴について 講師：東京情報大学 総合情報学部 教授 田邊 昭雄 氏</p> <p>【講義】高齢者の体の状況や関わり方 説明：市原市社会福祉協議会職員</p> <p>【説明】個人宅訪問型傾聴ボランティア活動基礎研修 説明：市原市社会福祉協議会職員</p> <p>【活動紹介】 発表者：傾聴の会ひだまり、傾聴の友やすらぎ、傾聴の会こだま</p>

(イ) 日常生活支援事業担い手養成講座

公的な福祉サービスでは対応できない地域住民が抱える日常生活上のちょっとした困りごと(例：足腰が弱く電球交換が困難、庭木の手入れが難しいなど)を住民同士で解決し合う生活支援活動の全体的な拡充を図るため、新たな支援者の掘り起こしと活躍できる場づくりを目的に実施した。

期日	3月3日(月)
場所	市原市姉崎保健福祉センター 体育室
参加者	一般市民28名、地区関係者21名

内容	<p>【講演】地域で支え合う“住民参加型在宅福祉サービス”について 講師：東京通信大学 人間福祉学部 人間福祉学科 准教授 小倉 常明 氏</p> <p>【体験談】・ちはら台地区「たすけあい隊」木内 和子 氏 ・辰巳台地区「たすけあい辰巳ねこの手」西村 俊一 氏</p> <p>【活動紹介】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三和地区「たすけあい三和」 ・市津地区「市津まごの手」 ・ちはら台地区「たすけあい隊」 ・辰巳台地区「たすけあい辰巳ねこの手」 ・有秋地区「くらしのささえあい」 ・姉崎地区「姉崎“チョコっと”サービス」 ・国分寺台地区「日常生活支援事業」 ・南総地区「ささえあい南総」 ・加茂地区「草刈り助け合い作業活動」 <p>【交流タイム】参加者と活動実践者の交流</p>
----	---

成果	傾聴ボランティア養成講座では、新たに9名が傾聴活動を行うグループに加入し、福祉施設や個人宅での活動につながった。また、地区社協を中心に展開する日常生活支援事業の養成講座では、地区ごとに活動実践者と受講者との交流の機会を設けたことで、6名の活動者を確保することができた。
課題・方向性	引き続き、傾聴ボランティア活動では、活動グループと調整のもと福祉施設や個人宅での活動展開を図る。個人宅の活動については、地域包括支援センター・居宅介護支援事業所のニーズに基づき、段階的に活動エリアの拡充や活動者の確保に努めていく。また、本会が運営するボランティアセンターとして、地域生活課題の解決に向けた幅広い地域福祉活動の人材を育成・確保するための講座等を企画実施していく必要がある。

(3) 人材育成事業

地域特性に応じた地域福祉活動の充実を図るため、新たな担い手の発掘、確保に取り組んだ。

地区	開催日数	参加者数	支援者数	内容
辰巳台	1日	48名	14名	辰巳台地区の地域福祉に携わる団体を対象に、「今後の地域福祉活動」をテーマとした研修会を開催し、地域福祉活動実践者の資質向上を図った。
市津	1日	27名	7名	地域住民を対象に日常生活支援事業の説明会を実施。また、支援会員向けの勉強会を行い、活動上の留意点等の情報共有を行った。
ちはら台	1日	70名	25名	地域住民を対象とする集いを開催し、地区社協の事業紹介やボランティア活動紹介、活動者の募集案内を行った。
有秋	2日	49名	2名	地域の小学校と連携し小学5年生を対象に「福祉の授業」を開催し、地区社協活動の紹介や周知を図った。
南総	2日	80名	6名	地域住民を対象に日常生活支援事業に関わるコーディネーター研修を行い、事業全体のイメージの共有化を図った。
五井	1日	19名	6名	日常生活支援を実施するため、実践地区のコーディネーターを講師に事業概要、役割等の勉強会を開催。併せて懇談会を開催し、交流を図った。

年度	開催地区	開催日数	参加者数	支援者数
R6年度	6地区	8日	293名	60名
R5年度	6地区	9日	263名	74名
増減	0地区	△1日	30名	△14名

成果	6地区で地域関係者の協力により地域福祉に関する講義や日常生活支援事業などの地域福祉活動に関する住民向けの勉強会を実施した。昨年度以上の住民が参加し、地域福祉活動への理解や人材の掘り起こしにつながった。
課題・方向性	役員の後継者不足、担い手不足が全地区共通の喫緊の課題となっていることから、事業に参加した住民が地域福祉活動へつながり活動者として定着する事業の企画実施と全地区での事業実施に努めていく必要がある。

2. 権利擁護の推進

(1) 市原市成年後見支援センターの設置・機能の充実

市原市より成年後見支援センター運営を受託し、中核機関として、成年後見支援制度利用の「制度普及」、「相談・支援」、「法人後見受任」、制度利用促進を図るための「協議会」の開催に加え、市原市で初めてとなる「市民後見人養成講座」を実施した。また、後見制度と両輪とされている福祉サービス利用援助事業の拡充を図った。

①市原市成年後見支援センター（市原市委託事業）

(ア) 成年後見制度相談事業

【対応実績】新規相談・支援総数

区分	高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計	R5年度	増減
支援総数 (新規相談件数)	2,234件 (177件)	127件 (17件)	615件 (31件)	198件 (25件)	3,174件 (250件)	2,193件 (257件)	981件 (△7件)

▶ 相談手段別支援内訳

区分	高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計	R5年度	増減
電話	1,333件	76件	396件	122件	1,927件	1,364件	563件
郵便・メール	253件	19件	34件	27件	333件	202件	131件
訪問	529件	17件	146件	38件	730件	464件	266件
来局	98件	14件	31件	9件	152件	140件	12件
調整会議	13件	1件	3件	1件	18件	16件	2件
ケース会議	6件	0件	4件	1件	11件	7件	4件
その他	2件	0件	1件	0件	3件	0件	3件
合計	2,234件	127件	615件	198件	3,174件	2,193件	981件

▶ 相談内容別支援内訳

区分	高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計	R5年度	増減
法定後見	191件	25件	39件	14件	269件	200件	69件
任意後見	9件	0件	0件	1件	10件	2件	8件
弁護士相談	19件	2件	6件	0件	27件	28件	△1件
専門職相談	165件	9件	0件	35件	209件	127件	82件
福祉機関紹介	5件	0件	0件	0件	5件	17件	△12件
公証人役場	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
遺言相続	2件	0件	0件	0件	2件	4件	△2件
事務委任契約	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
虐待など	0件	0件	0件	0件	0件	1件	△1件
福祉サービス利用援助事業	77件	3件	10件	11件	101件	129件	△28件
その他	2件	1件	0件	1件	4件	7件	△3件
申立支援	727件	29件	231件	63件	1,050件	468件	582件
後見人支援	25件	6件	38件	15件	84件	94件	△10件
法人後見	1,012件	53件	290件	58件	1,413件	1,116件	297件
合計	2,234件	128件	614件	198件	3,174件	2,193件	981件

(イ) 弁護士による成年後見制度専門相談

【会場：市原市社会福祉協議会（事務局） 時間：午後1時30分～午後4時30分】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	R5年度	増減
相談者数	0名	3名	2名	3名	0名	1名	2名	2名	2名	2名	2名	3名	22名	24名	△2名

【会場：市原市南部保健福祉センター（年2回） 時間：午後1時30分～午後4時30分】

月	6	10	計	R5年度	増減
相談者数	3名	2名	5名	4名	1名

※1…相談者1名あたりの相談時間：60分

※2…1日の相談枠数：3名

(ウ) 「調整会議」の開催

制度利用の要否やケース検討、市長申立について、司法福祉専門職と市関係機関で構成された「調整会議」を実施。

	参加者	内容				審議総数	R5年度	増減
		市長申立	ケース検討	法人後見 受 任	経過報告			
4月11日	12名	0件	1件	0件	0件	1件	1件	0件
5月9日	9名	1件	0件	1件	0件	2件	1件	1件
6月（開催中止）		0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
7月（開催中止）		0件	0件	0件	0件	0件	2件	△2件
8月6日	12名	2件	1件	0件	0件	3件	0件	3件
9月10日	9名	1件	0件	0件	0件	1件	0件	1件
10月8日	12名	2件	0件	0件	0件	2件	1件	1件
11月12日	11名	4件	2件	0件	0件	6件	2件	4件
12月10日	12名	1件	0件	0件	0件	1件	2件	△1件
1月（開催中止）		0件	0件	0件	0件	0件	5件	△5件
2月（開催中止）		0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
3月11日	11名	2件	0件	0件	0件	2件	2件	0件
合計	88名	13件	4件	1件	0件	18件	16件	2件

(エ) 広報啓発活動

後見制度概要の広報活動、センター活動普及や講演会を実施。

期日	場所	講演名	参加者
7月16日	包括ふるさと	地域包括支援センターふるさと 勉強会 「法定後見制度と任意後見制度その相談対応について」	20名
8月19日	徳包括ふるさと	地域包括支援センターふるさと 勉強会 「市原市後見支援センター支援事例について」	16名
10月15日	地域包括たつみ (オンライン)	地域包括たつみ・市津ちはら台「ケアマネ交流会」 「後見人の業務について」	16名
12月19日	五井病院 (オンライン)	介護支援専門員研修会 「福祉サービス利用援助事業と成年後見制度について」	98名
2月27日	五井公民館	市原市視覚障害者福祉会 「後見制度について」	12名
3月11日	市原市市民会館	令6年度市原市地域包括支援センター研修会 「後見制度について」	17名
参加人数合計			179名

(オ)「協議会」の開催

司法・医療・福祉等の地域連携体制を構築し、行政機関、関係機関等及び専門職と意見交換、協議を実施した。

期日	場所	参加者	協議内容
7月30日	事務局	24名	市原市成年後見支援センターの機能と推進事業について ・令和5年度市原市成年後見センター活動報告と課題の検討について ・市原市成年後見制度利用促進調整会議の活用について
2月4日	事務局	22名	市原市成年後見支援センターの機能と推進事業について ・地域連携ネットワークの強化について

(カ)「市民見人フォローアップ研修」の開催

後見人活動に必要な基礎知識を習得し、市民後見人として活動できる人材を育成することを目的として昨年度養成講座を受講修了した20名を対象にフォローアップ研修を実施した。

期日	場所	参加者	研修内容
4月24日 6月19日	千葉県社会福祉協議会	10名 3名	生活支援員養成研修会
9月28日	事務局	15名	①在宅高齢者、障がい者の消費被害と対応 ②支援者における(聴く)支援力とは
3月15日	事務局	12名	①将来にそなえる厚生省証と公証役場の役割について ②意思決定支援について(グループワーク)
通年	市内	12名	本会契約者等への同行支援及び実務研修

②法人後見の実施

調整会議において制度利用が適正と承認された方の候補者として、家庭裁判所へ申立をし、後見人等として受任をした。(R7.3.31現在受任中の数値)

区分	後見人	保佐人	補助人	受任件数	R5年度	増減
高齢者	4件	3件	2件	9件	10件	△1件
知的障がい者	2件	0件	0件	2件	1件	1件
精神障がい者	0件	1件	1件	2件	2件	0件
その他	0件	0件	0件	0件	1件	△1件
合計	6件	4件	3件	13件	14件	△1件

③福祉サービス利用援助事業(日常生活自立支援事業)

高齢者や障がい者に対し、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理等の援助を行うことにより、地域での自立した生活を送ることを支援するために、福祉サービス利用援助事業を実施した。

(ア)新規相談・契約件数

区分	高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計	R5年度	増減
新規相談件数	75件	4件	12件	11件	102件	129件	△27件
新規支援・訪問回数	314件	31件	51件	69件	465件	745件	△280件
新規契約件数	22件	2件	5件	2件	31件	44件	△13件

(イ)契約者訪問・相談支援件数

月	契約者数	訪問支援件数	相談支援件数	支援合計	R5年度	増減
4	117件	131件	314件	445件	411件	34件
5	119件	133件	486件	619件	374件	245件
6	116件	130件	345件	475件	462件	13件
7	120件	133件	417件	550件	460件	90件

8	120件	134件	392件	526件	532件	△6件
9	122件	135件	310件	445件	449件	△4件
10	124件	139件	312件	451件	406件	45件
11	125件	134件	292件	426件	428件	△2件
12	128件	153件	367件	520件	421件	99件
1	128件	136件	385件	521件	378件	143件
2	126件	144件	304件	448件	362件	86件
3	122件	135件	287件	422件	442件	△20件
合計		1,637件	4,211件	5,848件	5,125件	723件

成果	市民後見人養成講座修了者に対して、フォローアップ研修（座学、実務研修）を実施し、社協の支援員として10名が単独で活動に就くことができた。また、相談支援件数も着実に増加しており、センターの認知度が向上したと思われる。センターに寄せられる相談は複雑、困難なケースが増えているが、関係機関との協力・連携を図りながら対応、支援することができた。
課題・方向性	後見制度については、未だ十分に普及しているとは言えない状況であるが、引き続き様々な媒体や講習会等を通じて広く市民へ周知するとともに、本人の意思に沿った制度利用となるよう、本人、地域住民、関係者とチームを組んだ支援体制の構築を図っていく。また、市民後見人養成講座修了者に対し引き続きフォローアップ研修を行い、市民後見人として活躍できる人材の育成に努める。

3. 災害対応力の向上

災害ボランティアセンターの体制強化

「災害ボランティアセンター」の体制強化を図るために、市原市との間で締結した「災害ボランティアセンターの設置・運営等に関する協定書」や大規模災害時などに備え策定した事業継続計画（BCP）に基づき、災害支援活動に取り組む関係機関・団体等と連携・協働のもと下記の取組みを行った。

(1) 災害ボランティアの育成・確保

① 災害ボランティア養成講座（基本編）

災害時のボランティア活動や災害ボランティアセンターについて基本的な知識や技術を学ぶとともに、被災後の復興支援に取り組む「災害ボランティア」を養成することを目的として実施した。

期日	7月28日（日）
場所	市原市消防局 2階講座
参加者	一般市民57名
内容	【説明】「市原市災害ボランティアセンターについて」 説明：市原市社会福祉協議会職員 【講義・演習】「災害ボランティア（センター）の役割について」 講師：公益社団法人SL災害ボランティアネットワーク 常務理事 天寺 純香 氏 【事務連絡】「市原市災害ボランティア登録制度について」 ⇒ 26名事前登録

② 災害ボランティア養成講座（ステップアップ編）

今後の大規模災害に備えて、災害発生時に迅速・円滑に救援活動が行えるよう、災害ボランティアのリーダーとして活動するために必要な知識を習得し、資質向上を図ることを目的として実施した。

期日	12月14日（土）
場所	市原市消防局 2階講座
参加者	災害ボランティア事前登録者51名
内容	【講義・演習】「災害ボランティアセンタースタッフとしての役割」 講師：公益社団法人SL災害ボランティアネットワーク 常務理事 天寺 純香 氏

③市原市自主防災実務者講習会（※NPO 法人ゆかいな仲間たちの主催事業）

市原市自主防災実務者講習会の中で「災害ボランティアセンター」について講義を行った。

期日	6月16日（日）
場所	市原市姉崎保健福祉センター 体育室

④いちほら市民大学専門講座（※市原市の主催事業）

防災コースにて「災害ボランティアセンターの役割」について講義を行った。

期日	12月18日（水）
場所	サンプラザ市原9階 研修室1・2
受講者	一般市民18名

（2）市原市災害ボランティア活動連絡調整会議の開催

市原市が大規模災害に見舞われたとき、関係機関及び団体が連携し、迅速かつ効果的な支援活動を行えるよう、平常時から災害対策について情報の共有や施策の連携を図ることを目的として、市原市災害ボランティア活動連絡調整会議を実施した。

期日	1回目：6月19日（水） 2回目：10月23日（水） 3回目：1月29日（水） 4回目：3月12日（水）
場所	市原市社会福祉協議会 3階会議室
内容	<p>1回目 ①災害ボランティア活動連絡調整会について （市原市災害ボランティア活動連絡調整会議設置要領・令和6年度災害ボランティア活動連絡調整会議開催スケジュール） ②令和6年度事業計画について （災害ボランティア養成講座【基本編】・【ステップアップ編】、災害ボランティアセンター設置運営訓練） ③構成機関・団体の活動近況報告について</p> <p>2回目 ①令和6年度事業について （災害ボランティア養成講座【基本編】の開催報告、災害ボランティア養成講座【ステップアップ編】、災害ボランティアセンター設置運営訓練及び福祉避難所開設運営訓練） ②構成機関・団体の活動近況報告について</p> <p>3回目 ①令和6年度事業について （災害ボランティア養成講座【ステップアップ編】の開催報告、災害ボランティアセンター設置運営訓練及び福祉避難所開設運営訓練） ②構成機関・団体の活動近況報告について</p> <p>4回目 ①令和6年度事業について （災害ボランティアセンター設置運営訓練及び福祉避難所開設運営訓練の開催報告） ②災害ボランティア活動連絡調整会議の拡充について ③構成機関・団体の活動近況報告について</p>

（3）災害ボランティアセンター設置運営訓練の実施

「事業継続計画（BCP）」及び「災害ボランティアセンター運営マニュアル【改訂版】」に基づき、市原市において大規模災害が発生した場合に迅速に対応するため、災害ボランティアセンターの設置運営を行うとともに、関係団体の協力を得てサテライト災害ボランティアセンターの設置運営訓練を実施した。※福祉避難所開設運営訓練同日開催

期日	2月11日（火・祝）
場所	市原市上総更級公園
参加者	95名

内容	「事業継続計画（BCP）に基づく災害ボランティアセンター設置運営訓練」 【協力団体】 市原市ボランティア連絡協議会、千葉県災害対策コーディネーター連絡会、（公社）SL 災害ボランティアネットワーク市原ネット、（公社）SL 災害ボランティアネットワーク千葉県ネット、日本赤十字社千葉県支部、千葉土建一般労働組合市原支部、市原市総務部危機管理課、市原市保健福祉部共生社会推進課
----	--

成果	災害時に円滑・迅速な災害ボランティアセンターの設置・運営を図るため、訓練や講座、関連団体が参画する調整会議などを開催するとともに、市民大学や防災訓練、防災関係者の講習会等への積極的な参加を通じた啓発活動を行った。 「災害ボランティアセンター設置運営訓練」では、災害ボランティアセンターの候補場所である市原市上総更級公園を会場として初めて実施したことで、実際の運営イメージやボランティアの流れ等動線の確認をすることが出来た。また、災害ボランティア事前登録者1名にセンタースタッフとして関わってもらうことが出来た。
課題・方向性	平常時から災害時に迅速に対応できるよう「災害ボランティア養成講座(ステップアップ編)」や「災害ボランティアセンター設置運営訓練」を通じたセンタースタッフやボランティア活動リーダー役を担う人材の育成に努める。 また、「災害ボランティアセンター設置運営訓練」で把握した課題の解決や、業務効率化に向けたキントーン導入によるICT活用について検討する。

(4) 災害支援ボランティア事業

災害にも強い地域づくりに向けて、地域住民や地域関係者を対象に防災・減災の意識啓発と災害時におけるボランティア活動を切り口とする地域での災害支援活動について勉強会等を企画実施した。

地区	開催日数	参加者数	支援者数	内容
辰巳台	1日	68名	9名	八幡消防署の協力のもと、災害発生時・緊急時の対応方法について、地域の子育て世代を対象に防災教室を開催した。
ちはら台	2日	35名	12名	防災・減災の啓発に向け防災士による地域住民を対象とした地域防災講座を開催。併せて、災害ボランティア関連の理解を深めるために、本会職員によるサテライト災害ボランティアセンターの役割に関する講義を実施した。
国分寺台	3日	72名	40名	地域住民を対象とした研修会を開催。市原市危機管理課を講師に市原市避難計画に関する講演を行い、災害に対する意識醸成を図った。また併せて福祉避難所の開設までの模擬訓練を実施した。
有秋	2日	32名	2名	有秋・姉崎・千種地区が合同で研修会を開催し、福祉避難所の開設・運営について理解を深めた。
南総	1日	10名	3名	地区社協理事・役員を対象に、サテライト災害ボランティアセンター及び福祉避難所開設に関する一連の流れについて理解促進を目的とした勉強会を実施した。
五井	1日	18名	6名	地区社協関係者を対象に、災害時のボランティア活動における理解を深めるため、本会職員によるサテライト災害ボランティアセンターの役割に関する講義を実施した。

年度	開催地区	開催日数	延参加者数	延活動者数
R6年度	6地区	10日	235名	72名
R5年度	7地区	13日	306名	64名
増減	△1地区	△3日	△71名	8名

成果	平常時から大規模災害に備えた地域での防災意識の啓発や災害ボランティア活動に資する事業を6地区で実施した。五井・国分寺台地区では、本事業を活用した事前勉強会の開催や本会主催の訓練を活用しながら、災害時に備えたボランティア活動やサテライト災害ボランティアセンター・福祉避難所への関わりについての理解を深めることができた。
課題・方向性	引き続き、事業を通じ地域住民への防災・減災の意識啓発と、各地区における災害時のボランティア活動やサテライト災害ボランティアセンターの運営支援に係る体制構築に向けた検討を進める。

指定管理施設の運営

1. 指定管理施設管理経営事業

指定管理者として、老人福祉センター、保健福祉センター（3館）をそれぞれ運営した。

施設名	指定管理期間
老人福祉センター	令和6年4月1日～令和11年3月31日
三和保健福祉センター	
南部保健福祉センター	令和2年4月1日～令和7年3月31日
姉崎保健福祉センター	令和3年4月1日～令和8年3月31日

(1) 老人福祉センター管理経営事業

高齢者に対し、各種相談に応じるとともに健康の増進、教養の向上及びレクリエーションのための便宜を総合的に供与することを目的として、健康体操の実施、保健師による健康相談や血圧測定、その他教養講座を次のとおり開催した。

事業名		期日
健康相談・血圧測定(保健師：串田保健師)		毎月1回
各種講座	大正琴	第2・第4水曜日
	書道	第1・第3金曜日
	生け花	第2・第4木曜日
	アートフラワー	第1木曜日
	絵てがみ	第1月曜日
	囲碁会	毎週火曜日

①月別利用状況

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
老人クラブ	団体数	3	3	3	2	3	3	4	3	3	3	3	1	34 団体
	人数	76	48	50	31	45	62	60	53	57	65	50	24	621 名
一般団体	団体数	24	23	24	26	14	23	27	25	24	21	23	25	279 団体
	人数	289	274	247	322	171	270	284	276	275	260	246	288	3,202 名
団体合計	団体数	27	26	27	28	17	26	31	28	27	24	26	26	313 団体
	人数	365	322	297	353	216	332	344	329	332	325	296	312	3,823 名
個人人数		1,022	951	975	1,030	904	874	948	873	1,043	1,019	913	973	11,525 名
総合計		1,387	1,273	1,272	1,383	1,120	1,206	1,292	1,202	1,375	1,344	1,209	1,285	15,348 名

②利用状況前年度比較

区分	団体数		前年度 比較増減	人数		前年度 比較増減
	令和6年度	令和5年度		令和6年度	令和5年度	
老人クラブ	34団体	37団体	△3団体	621名	584名	37名
一般団体	279団体	286団体	△7団体	3,202名	3,333名	△131名
個人				11,525名	12,474名	△949名
合計	313団体	323団体	△10団体	15,348名	16,391名	△1,043名

成果	利用者の皆様が心地よく利用できるよう常に寄り添い館内の様子に気を配った。 積極的に健康体操やラジオ体操の参加を呼びかけ健康維持の促進に努めた。
課題・方向性	前年度と比較すると老人クラブの利用は増加したが教養講座、個人利用の人数が減少している。今後も情報発信等を積極的に行い、利用促進を図る必要がある。

(2) 姉崎保健福祉センター管理経営事業

①地域福祉センター

地域住民やボランティア、民間福祉団体等の福祉活動の拠点として利用を促進するとともに、各種福祉情報の提供を総合的に行い、地域住民の福祉意識の高揚を図った。また、地域住民の福祉ニーズや相談に応じるとともに、適切な管理運営と住民参加による各種事業を実施した。

(ア) 月別利用状況〔貸室〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R5年度	増減
体育室	0	0	0	0	0	0	2,160	1,781	2,290	1,787	1,853	2,501	12,372	20,200	△ 7,828
ボランティアルーム	430	363	382	411	375	294	509	273	460	259	400	426	4,582	4,552	30
実習室	221	204	303	151	73	127	220	181	201	176	169	186	2,212	2,361	△ 149
調理実習室	8	3	44	8	10	24	17	7	33	18	8	12	192	198	△ 6
研修室	503	549	681	658	409	385	583	359	498	1,154	507	954	7,240	7,665	△ 425
多目的ホール	789	718	688	758	646	713	632	501	683	524	691	623	7,966	7,268	698
ゲートボール場	32	51	26	0	0	0	14	14	23	18	27	55	260	283	△ 23
相談室	50	35	34	24	8	30	129	32	26	60	66	139	633	883	△ 250
合計	2,033	1,923	2,158	2,010	1,521	1,573	4,264	3,148	4,214	3,996	3,721	4,896	35,457	43,410	△ 7,953

※地域福祉センター休室 体育室…令和6年9月末まで天井耐震及び照明LED化工事により休室

(イ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内容	参加者
バリアフリー スポーツ教室	体育室工事に より中止	障がい児(者)を中心としたバリアフリースポーツを地域の高齢者、児童、ボランティアと一緒に体験することで、障がい者への理解を深め交流の機会を作る。	—
昔あそび	6月22日 10月26日 1月25日 3月15日	昔から伝承されている遊び子どもに伝えるとともに一緒に楽しみながら世代間の交流を図ることを目的として実施した。(児童館と共催) 協力：シルバー友の会	189名
アネッサクリーンミニ 作戦	5月11日	施設利用者と地域住民が地域の清掃活動を行い、地域に貢献するとともに、世代間・サークル間の交流を図り相互理解を深めることを目的として実施した。(児童館と共催)	30名
自主防災講習会	6月 (全4回)	防災についての知識を高め、地域防災の在り方や取組について学ぶことを目的として実施した。 (NPO法人ゆかいな仲間たちと共催)	116名

アネッサ発 クリーン大作戦	11月16日	施設利用者と地域住民が地域の清掃活動を行い、地域に貢献するとともに、世代間・サークル間の交流を図り相互理解を深めることを目的として実施した。（児童館と共催）	97名
手話入門講座	1月～3月 (全10回)	市民に対し、障がいに対する理解とボランティア意識の向上を図るため、初心者を対象とした手話入門講座を実施した。	37名
アネッササックス フェスタ	10月14日	地域住民同士の交流を促進し、地域との新たなつながりをつくることを目的に、姉崎地区社会福祉協議会と共催し「アネッサ福祉祭りバザー」を実施した。	480名
チャレンジ 夏休みの課題	7月29日 7月30日 7月31日	近隣小学校児童の夏休み期間中の学習をサポートすることを通じて、世代間交流や相互理解を深めることを目的として実施した。（児童館及び青少年会館と共催）	71名
グランドゴルフ大会	9月29日	社会体育振興会の呼び掛けにより、世代間の交流を図ることを目的として実施した。（社会体育振興会と共催）	29名
普通救命講習	5月14日	万が一における事故等に市民が対応できる知識及び技術を身につけてもらうための講習会を実施した。	6名
施設内美化活動	4月13日 5月11日 6月9日 9月5日 10月12日	敷地内の除草作業を利用者に呼びかけ、ボランティア意識の向上と親睦を図ることを目的として実施した。	57名
ボランティア 活動紹介	7月1日 ～7月31日	アネッサを利用するボランティアグループの活動紹介を施設内に掲示することで、市民のボランティア活動への関心を高めるとともに、活動の周知及び啓発を図ることを目的として実施した。	10団体
サークル活動紹介	1月4日 ～2月28日	アネッサを利用するサークルの活動紹介を施設内に掲示し、地域住民に広く周知することで、生きがいのある活動へのきっかけづくりを目的として実施した。	14団体
レコード交流会	4月～3月 (全12回)	レコード鑑賞（茶話会）を通じ、地域住民の居場所として、交流する機会を提供することを目的として実施した。	357名
おもいっきり体育室	10月26日 1月25日 2月22日 3月15日	参加者が自由に体を動かして、様々な遊びを楽しむことや、ボランティアと参加者同士の交流を図ることを目的として実施した。（児童館と共催）	159名
あそびばアネッサ	12月14日	子どもの居場所を提供するとともに、「あそび」を通じた住民同士の交流により、地域内の福祉ニーズの発掘や福祉に対する理解促進を図ることを目的として実施した。（姉崎地区社会福祉協議会との共催）	62名
地域食堂 げんき食堂アネッサ	4月～3月 (全9回)	子どもから高齢者まで様々な世代が交流し、地域の絆を深め、支えあい・助け合いの意識を育むことができる居場所づくりを目的として実施した。（姉崎地区社会福祉協議会との共催）	301名
共生型サロン ニコニコサロン	4月～3月 (全11回)	高齢者、就学前の親子、障がい者を含む地域の誰もが参加でき、交流を図ることを目的として実施した。（姉崎地区社会福祉協議会との共催）	475名
卓球教室	1月18日 1月19日	アネッサを利用する高齢者卓球サークルが講師となり、小学校児童を対象とした卓球教室を開催することで交流を図り、高齢者にボランティア活動への参加促進及び生きがいづくりを目的として実施した。	69名
バスケットボール大会	3月23日	バスケットボール大会を通じて、市内の青少年の健全育成を促進することを目的として実施した。（市原市青少年相談員連絡協議会姉崎支部との共催）	160名

成果	保健福祉センターの特性を活かした地域の各種団体等との共催事業を実施した。特に姉崎地区社会福祉協議会と共催した「アネッササクスフェスタ（アネッサ福祉祭りバザー）」により、世代間交流や地域の絆づくり、居場所づくりが図られ、地域住民と一体となった事業展開を行うことができた。また、各事業の内容を充実させたことにより、世代間の交流が行われ、高齢者や児童、障がいのある方等が相互理解を深めることができた。
課題・方向性	今後も地域の福祉ニーズや相談に応じ、適切な管理運営と住民参加による各種事業を企画実施していく。また、アネッサ広報紙やホームページ、SNSを活用し、積極的な広報活動を行い活動のPRを進めていくとともに、ボランティアが参加しやすい環境整備に努めていく。

②老人福祉センター

高齢者が健康で明るい生活が送れるよう憩いの場を提供するとともに、豊かな心で生きがいのある生活が送れるように、健康増進や介護予防を目的とした各種講座を実施した。

(ア) 月別利用状況〔貸室〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R5年度	増減	
大広間	団体	0	0	0	8	7	12	41	33	39	9	6	4	159	26	133
	個人	635	582	573	628	537	585	529	535	558	560	597	606	6,925	7,081	△ 156
和室	36	53	41	59	24	55	138	83	26	54	61	94	724	775	△ 51	
男性浴室	508	466	529	397	467	498	463	506	225	435	511	629	5,634	4,220	1,414	
女性浴室	0	0	0	29	72	107	165	193	78	133	191	204	1,172	1,160	12	
合計	1,179	1,101	1,143	1,121	1,107	1,257	1,336	1,350	926	1,191	1,366	1,537	14,614	13,262	1,352	

※老人福祉センター休室

男性浴室…令和6年7月10日～14日、令和6年12月12日～令和7年1月6日

女性浴室…令和6年4月1日～7月14日、令和6年12月12日～令和7年1月6日

(イ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内容	参加者
ヨガ教室	4月～6月 (全10回)	初心者向けのヨガ教室を通じて交流の場を提供するとともに、健康促進、介護予防を兼ねた心身の健康維持を図ることを目的として実施した。 講師：鈴木 なぎさ 氏	91名
一文字書を楽しむ (書道教室)	5月10日 5月17日 5月24日 6月7日	書道を通じ趣味活動や創作意欲を高めるとともに、交流の場の提供や心身の健康維持を図ることを目的として実施した。 講師：大野 蘭秀 氏	30名
健康体操教室	1月～2月 (全6回)	健康体操を通じて交流の場を提供するとともに、健康促進、介護予防を兼ねた心身の健康維持を図ることを目的として実施した。 講師：栗林 雄一 氏	58名
フラワーアレンジメント教室	1月24日 2月7日	フラワーアレンジメントを通じ趣味活動や創作意欲を高めるとともに、交流の場の提供や心身の健康維持を図ることを目的として実施した。 講師：茂木 朋美 氏	12名
はじめての 太極拳教室	6月～8月 (全8回)	太極拳を通じて交流の場を提供するとともに、健康促進、介護予防を兼ねた心身の健康維持を図ることを目的として実施した。 講師：山崎 辰雄 氏	184名
絵手紙教室	10月～12月 (全10回)	絵手紙の基本を学ぶことで趣味活動や創作意欲を高めるとともに、交流の場の提供や心身の健康維持を図ることを目的として実施した。 講師：東 洋子 氏	97名

介護予防講話 ・体操教室	3月4日 3月11日 3月17日 3月24日	地域包括支援センターによる講話や体操を通じ、体力の維持増進を図り介護予防に繋げることを目的として実施した。 講師：地域包括支援センターたいよう 地域包括支援センターしおみ	42名
折り紙教室	12月16日	折り紙の基本を学ぶことで趣味活動や創作意欲を高めるとともに、交流の場の提供や心身の健康維持を図ることを目的として実施した。 講師：福田 進一 氏	5名
ヨガ教室中級	10月～12月 (全6回)	ヨガ教室を通じて交流の場を提供するとともに、健康促進、介護予防を兼ねた心身の健康維持を図ることを目的として実施した。 講師：鈴木 なぎさ 氏	56名
ハンドメイド(トールペイント)教室	6月～12月 (全6回)	トールペイントの基本を学ぶことで趣味活動や創作意欲を高めるとともに、交流の場の提供や心身の健康維持を図ることを目的として実施した。 講師：黒川 美智子 氏	51名
アネッサ料理教室	8月20日	料理教室を通じて、参加者相互の交流を図り、生きがいのある生活を助長することを目的として実施した。 講師：安藤 みどり 氏	7名
アネッサケーキ教室	11月9日 1月12日	ケーキづくり教室を通じて、参加者相互の交流を図り、生きがいのある生活を助長することを目的として実施した。 講師：野田 真由美 氏	8名
歩こう会	4月～3月 (全9回)	高齢者の介護予防と生きがいづくりの場を提供することを目的として実施した。 (姉崎小学校区小域福祉ネットワークとの共催)	183名

成果	主催事業やサークル利用により、高齢者の社会参加の契機や介護予防につなげ、高齢者福祉の推進に寄与することができた。また、姉崎地区社会福祉協議会との連携により、ちょっとした困りごとを抱えるセンター利用の高齢者への声掛けや生活支援につなぐことができた。
課題・方向性	地域の高齢者が事業等への興味・関心を持ち、参加や利用を促進するために、本会ホームページやアネッサだより等で広報活動を積極的に行う必要がある。また、利用者の安全を確保するため、引き続き設備点検等を実施し、適切な施設管理に努めたい。

③児童館

児童に健全な遊びを提供し、健康の増進及び体力の向上を図るとともに、情操を豊かにすることを目的として各種の事業を実施した他、子育て支援や青少年の健全育成に努めた。

(ア) 月別利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R5年度	増減
児童	279	261	518	585	576	571	407	357	365	380	393	505	5,197	4,888	309
保護者	210	216	310	303	291	295	289	219	218	252	215	275	3,093	3,920	△ 827
合計	489	477	828	888	867	866	696	576	583	632	608	780	8,290	8,808	△ 518

(イ) 図書貸出状況

児童の情操の向上に寄与するもの及び子育てに関する図書の閲覧、貸出を実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R5年度	増減
登録者	6	4	5	9	5	5	2	3	1	2	3	3	48	54	△ 6
貸出(冊)	163	123	170	253	207	345	99	115	156	122	167	198	2,118	2,861	△ 743

(ウ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内容	参加者
子育て支援拠点事業			
ポヨポヨクラブ	毎週火曜日	未就学児とその保護者を対象とし、育児不安の解消や情報交換の場を提供するとともに、親子のふれあい、子育てに役立つ情報等を提供するために実施した。	1,054名
ひよこクラブ	毎週木曜日		659名
のびのびクラブ	毎週金曜日		920名
相談支援事業	通年	子育ての不安感等を緩和するために実施した。	24名
定期企画事業			
英語で遊ぼう	毎月第3水曜日	楽しく遊びながら英語に親しむ子育てクラブを実施した。	114名
ママといっしょ	毎月第4水曜日	楽しく遊びながら音楽に親しむ子育てクラブを実施した。	125名
ふたごっちクラブ	毎月第2水曜日	双子を対象として、簡単な手遊び・絵本の読み聞かせ・保護者同士の交流を通して育児についての情報交換や仲間作りの場として実施した。	40名
ゲーム・工作	毎週日曜日	手ぶらで気軽に楽しめるイベントを土日に開催した。	920名
おもいっきり体育室	10月26日 1月25日 2月22日 3月15日	参加者が自由に体を動かして、様々な遊びを楽しむことや、ボランティアと参加者同士の交流を図ることを目的として実施した。 (地域福祉センターと共催)	159名
昔あそび	6月22日 10月26日 1月25日 3月15日	ボランティアを通じて、昔から伝承されている子どもの遊びを楽しみ、交流を図るために実施した。(地域福祉センターと共催) 協力：シルバー友の会	189名
必須事業			
乳幼児のための救急法	9月26日	乳幼児を持つ保護者が、家庭内における突発の事故に対処する基礎知識を習得することを目的として実施した。 講師：姉崎消防署	22名
ママのリフレッシュ講座	9月4日	日頃の育児疲れやストレスを発散し、リフレッシュしてもらうことを目的に「ガーランド作り」を実施した。	16名
すこやか講座	7月12日 9月12日 11月26日	育児についての日頃の悩みなどを話し合い、育児の大切さを学ぶとともに、育児に対する適切な情報提供を行うことを目的として実施した。	72名
食育座談会	6月13日	食について日頃の悩みなどを話し合い、食の大切さを学ぶとともに、食に対する適切な情報提供を行うことを目的として実施した。 講師：市原市ネウボラセンター栄養士	19名
児童館大運動会	10月2日	発育時期に分かれ実施している事業を合同イベントとして行うことで、通常事業とは違う情報交換や仲間作りの場の提供も兼ねるとともに、参加者間及び親子間の交流を図ることを目的に実施した。	75名
選択事業			
アネッサ自然体験	10月5日	自然に親しみながら情操を豊かにするとともに、集団生活を通して協調性及び責任感を認識させることを目的として実施した。	18名
中高生による子育てクラブ	通年	中高生ボランティアによる読み聞かせ、手あそびなどを実施した。	167名
キッズボランティアクラブ	通年	児童のボランティア活動への参加促進を図ることを目的とし、小中学生のボランティアによる子育てクラブでの発表に向けて練習した。	145名

アネッサ発 クリーン大作戦	11月16日	施設利用者と地域住民が地域の清掃活動に参加することでボランティア活動への意識を高めることを目的として実施した。（地域福祉センターと共催）	97名
単発企画事業			
おもしろ実験教室	8月3日	児童自らが創造し、自らの手で作る楽しさを体験することで、情操を豊かにするとともに集団活動を通じて協調性及び責任を認識させることを目的として実施した。	25名
児童館クリスマス会	12月18日	未就学児とその保護者が安心して過ごせる場所を提供し、子どもの成長と子育てに悩む保護者同士の交流の促進を目的として実施した。	106名
チャレンジ 夏休みの課題	7月29日 7月30日 7月31日	近隣小学校児童の夏休み期間中の学習をサポートを通じて世代間の交流を図り、相互理解を深めることを目的として実施した。（地域福祉センター及び青少年会館と共催）	71名
ハンドメイド（デコ パージュ）教室	9月7日	児童自らの手で作る楽しさを知り情操を豊かにするとともに、協調性・責任感を認識させることを目的として実施した。講師：黒川 美智子 氏	5名
クッキング教室	12月7日	児童自らの手で作る楽しさを体験するとともに、親子のふれあう喜びを味わい、情操を豊かにすることを目的として実施した。	18名
お楽しみ劇場	7月19日 10月25日 2月14日	人形劇を通して情操を豊かにするとともに、協調性を養うことを目的として実施した。	80名
ドールシアター	7月9日 11月12日	人形劇を通して想像力を豊かにするとともに、情操や協調性等を養うことを目的として実施した。	61名
卓球教室	1月18日 1月19日	アネッサを利用している高齢者卓球サークルが講師となり、小学校児童を対象とした卓球教室を開催することで交流を図り、高齢者にボランティア活動への参加促進及び生きがいづくりを目的として実施した。	69名
乳幼児のための 交通安全教室	7月23日	乳幼児をもつ保護者が、日常における交通マナーの基礎知識を取得し、交通安全に役立てることを目的として実施した。	35名

成果	子育てクラブは、充実したプログラムで実施したため、参加者から好評の声を多く聞くことができた。また、館内に小学生用のスペースを設けたことが地域住民へ浸透し、居場所として繰り返し利用する児童が増えたことにより利用者層の拡大につながった。
課題・方向性	引き続き利用者の立場を考慮した環境整備を図るとともに、利用者のニーズに合わせて事業の充実化を検討していく。また、SNSを活用したPRを継続して行っていく。

（3）三和保健福祉センター管理経営事業

①地域福祉センター

地域住民やボランティア、民間福祉団体等の福祉活動の拠点として利用を促進するとともに、各種福祉情報の提供を総合的に行い、地域住民の福祉意識の高揚を図った。また、地域住民の福祉ニーズや相談に応じるとともに、適切な管理運営と住民参加による各種事業を実施した。

（ア）月別利用状況〔貸室〕

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	R5年度	増減
ボランティアルーム	328	325	293	320	251	255	432	284	261	306	303	268	3,626	3,489	137
研修室	139	133	155	183	122	145	143	128	154	94	136	144	1,676	1,861	△ 185
多目的ホール	323	421	354	19	0	298	583	334	282	285	333	346	3,578	4,454	△ 876

創作活動室	120	126	99	182	130	109	146	155	103	100	109	98	1,477	1,375	102
合計	910	1,005	901	704	503	807	1,304	901	800	785	881	856	10,357	11,179	△ 822

※地域福祉センターの休室 多目的ホール 令和6年7月8日～令和6年9月12日

(イ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内容	参加者
おもちゃ図書館	4月～3月 (毎月第2・4土曜日)	未就学児を対象に、おもちゃで遊ぶことを通して心身の健全な発達を促すとともに、保護者同士の交流を図ることを目的として、ボランティアグループ「かるがも」の協力により実施した。	466名
さんあーとくらぶ	4月～3月 (毎月第3日曜日)	障がいを持つ人を対象としたボランティアによる絵画・工作教室を実施した。 講師：米元志慶子氏	56名
フレンズ	4月～3月 (毎月第1・3木曜日)	発達の気になる未就学児を対象に、遊びの場と機会を提供し、遊びを通して健全な発達を促すとともに、保護者同士の交流を目的として、発達支援センターの協力を得て実施した。	449名
子育てサロン さんわぼかぼか	4月～3月 (毎月第4月曜日(8、1月除く10回))	地区社会福祉協議会と連携、主に未就学児と保護者を対象に遊びと交流の場を提供すること及び見守りや相談等の活動を担うボランティアの育成支援を目的に実施した。	362名
世代間交流	5月22日 10月23日	60歳以上の高齢者と未就学児がおもちゃ作りやクイズラリーを介して交流することで喜びを感じてもらうことを目的として実施した。	55名
歌声喫茶	6月26日 7月31日 9月25日 11月27日 12月25日 3月13日	サンハート利用者や地域住民を対象に、音楽を通じて参加者相互のふれあいや交流を図り、また、利用団体に対して活動を披露する場を提供した。	250名
さんさんクリーン 大作戦	11月17日	地域住民やサンハート利用者が協力して清掃活動を行うことで、交流しながら地域の環境美化を実践し、併せてボランティア活動の啓発を図ることを目的として、施設周辺のごみ拾いを実施した。	42名
サンハートまつり	1月26日	施設利用サークル及び地域住民の交流の活性化による施設利用促進を目的として、展示や発表の場のほか、地域や障がい者関係団体と連携した模擬店などの出店により、地域交流を行った。	397名
市民講座	2月22日	地域住民を対象に、福祉についての関心を深め、住み良い地域づくりを推進するために「認知症サポーター養成講座」講座を実施した。	8名

成果	各種事業を通じて高齢者、障がい者、子育て家庭などがふれあい、交流する機会と場の提供を地域福祉関係団体等の協力を得て取り組んだことで、地域との連携強化につなげることができた。また、「サンハートまつり」の内容の見直しや歌声喫茶の回数を倍に増やすなど事業内容の充実させたことによって、より一層の地域交流や幅広い層の交流が図られ、相互理解を深めることができた。
課題・方向性	事業参加者は一部で増加を示しているが大部分では横這いの傾向を示している。社会情勢や生活環境が大きく変化していることから、新たな利用者ニーズに沿った事業展開を検討し、より効果的な事業実施や安心・安全な施設利用環境を整え利用促進につなげていく。

②老人福祉センター

高齢者が健康で明るい生活が送れるよう憩いの場を提供するとともに、豊かな心で生きがいのある生活が送れるように、健康増進や介護予防を目的とした各種講座を実施した。

(ア) 月別利用状況[貸室]

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	R5年度	増減
大広間(団体)	0	0	53	51	0	31	0	54	45	235	0	43	512	496	16
大広間(個人)	108	98	116	123	97	91	100	113	105	116	90	114	1,271	1,590	△ 319
和室	7	28	33	28	67	29	28	33	28	68	20	25	394	321	73
男性浴室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,111	△ 3,111
女性浴室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,195	△ 1,195
生活相談室	45	36	40	47	5	46	41	35	28	27	22	38	410	321	89
合計	160	162	242	249	169	197	169	235	206	446	132	220	2,587	7,034	△ 4,447

※老人福祉センターの休室 浴室 令和6年4月1日～令和7年3月31日

(イ) 年間事業実施状況

※新型コロナウイルス感染防止対策として定員を縮小して実施

事業名	期日	内容	参加者
健康体操教室	5月 10月 (全8回)	運動の習慣化を図り、基礎体力の維持と健康で生きがいのある生活につなげることを目的として実施した。 講師：大前陽子氏	109名
トールペイント教室	8月～9月 (全4回)	創作活動を通して教養を高め、参加者相互が交流し生きがいのある生活につなげることを目的として実施した。 講師：黒川美智子	16名
気功教室	6月 (全4回)	健康づくりの習慣化を図るとともに、交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：上久保治子氏	53名
ヨガ教室	5月 10月 (全8回)	健康づくりの習慣化を図るとともに、交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：古川佳子氏	102名
絵手紙教室	7月 11月 (全4回)	趣味活動を通じて教養を高め、参加者と交流することで生きがいのある生活につなげることを目的として実施した。 講師：向井艶子氏	54名
いつどこ脳トレ教室	7月 10月 (全2回)	日常生活の中で認知機能の低下を防ぐ脳トレを継続することで、脳を健康な状態に保ち介護予防につなげることを目的として実施した。 講師：豊留富美氏	21名
ボールエクササイズ教室	6月～7月 (全4回)	健康づくりの習慣化を図るとともに、交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：根本壽美子氏	57名
テーブルでできる茶の湯教室	9月～10月 (全4回)	趣味活動と交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：白川ますみ氏	38名
一文字書教室	11月 (全4回)	趣味活動と交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：大野文子氏	25名
健康太極拳教室	9月 (全4回)	運動の習慣化を図り、基礎体力の維持と健康で生きがいのある生活につなげることを目的として実施した。 講師：等々力啓子氏	49名

成果	運動機能維持等につながる教室などの事業を展開したことで、高齢者の健康意識の向上と健康維持を促進した。また、教養講座を通して参加者相互の交流を深め、創作活動や趣味の幅を広げることで、生きがいのある生活を助長することができた。
課題・方向性	各事業とも好評で定員越えの参加希望がある状況であるが、新規の参加者が少ない傾向がみられる。高齢者が持つニーズを踏まえて事業展開を工夫することで、参加意欲や持続性を高めるとともに、SNSなどを活用して、より幅広く効果的な周知を行い、新規参加者の開拓と利用促進につなげていく。

③児童館

児童に健全な遊びを提供し、健康の増進及び体力の向上を図るとともに、情操を豊かにすることを目的として各種の事業を実施した他、子育て支援や青少年の健全育成に努めた。

(ア) 月別利用状況

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	R5年度	増減
児童	306	248	321	499	588	535	506	357	336	381	335	545	4,957	1,440	3,517
保護者	265	238	294	450	488	449	402	338	276	310	289	429	4,228	1,417	2,811
合計	571	486	615	949	1076	984	908	695	612	691	624	974	9,185	2,857	6,328

(イ) 図書貸出状況

児童の情操の向上に寄与するもの及び子育てに関する図書の閲覧、貸出を行った。

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	R5年度	増減
新規登録者	3	5	3	10	12	3	11	3	4	4	0	2	60	72	△ 12
貸出(冊)	168	146	215	390	479	414	490	354	70	289	265	304	3,584	1,604	1,980

(ウ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内容	参加者
必須事業			
子供ボランティア育成支援事業(児童館ボランティアクラブ)	通年	児童を対象にボランティアの育成を目的として「児童館ボランティアクラブ」に登録してもらい、子育てクラブやイベント等において読み聞かせなどのボランティア活動の体験を行った。	48名
年長児童等来館促進事業(子育てクラブボランティア)	通年	三和地区社会福祉協議会と協働し、夏休み期間中の中学生・高校生へ子育てクラブにおける絵本の読み聞かせや遊び相手等のボランティア活動の機会を提供した。	20名
子育て支援事業			
さんさんくらぶ	毎週火曜日	1歳以上の乳幼児と保護者を対象とし、育児不安の解消や情報交換の場を提供するとともに、親子のふれあい、子育てに役立つ情報等を提供するために実施した。	422名
きらきらくらぶ	毎週金曜日	2歳以上の乳幼児と保護者を対象とし、育児不安の解消や情報交換の場を提供するとともに、親子のふれあい、子育てに役立つ情報等を提供するために実施した。	211名
よちよちくらぶ	毎週木曜日	1歳児と保護者を対象とし、育児不安の解消や情報交換の場を提供するとともに、親子のふれあい、子育てに役立つ情報等を提供するために実施した。	422名
あかちゃんくらぶ	毎週水曜日	0歳児と保護者を対象とし、育児不安の解消や情報交換の場を提供するとともに、親子のふれあい、子育てに役立つ情報等を提供するために実施した。	301名
よちよち・きらきら合同くらぶ	7月 8月	夏休み期間の事業効果を高めるため、個別くらぶ形式に加え、合同くらぶ形式でも実施した。	124名

子育てクラブ合同	10月 12月 3月	事業効果を高めるため、個別くらぶ形式に加え、合同くらぶ形式でも実施した。	165名
定期企画事業			
クラフト&プレイ	第2、第4日曜日	児童自らの手で作り、描き、物事を演じる楽しさを味わうことにより、情操を豊かにするとともに、集団活動を通じて協調性及び責任感を認識させることを目的に実施した。	105名
みんな遊ぼう	第3日曜日	児童自ら運動、ゲームを通して遊ぶ楽しさを味わうことにより、情操を豊かにするとともに、集団活動を通じて協調性及び責任感を認識させることを目的に実施した。	89名
おはなし会	第1日曜日	児童厚生員が読み聞かせをすることで、子どもと本を結びつけ、本に対する興味を育み読書の素地を作ることを目的に実施した。	51名
単発企画事業			
知ってよかった ママの救急法	5月21日	乳幼児のケガや誤飲などに関する手当の仕方を実技指導により学ぶ。 講師：市原市光風台分署署員	22名
ベビーマッサージ教室	6月5日 6月19日	助産師の指導によるベビーマッサージ 講師：嶋津一恵氏	34名
ふしぎ探検隊実験教室	7月20日	児童が自ら実験を体験することで化学などに対する興味や関心、集中力を高めるほか、豊かな情操を養うことを目的に夏休みの体験教室として実施した。 講師：三井化学株式会社市原工場	16名
布ぞうり教室	8月24日	タオルで布ぞうり作りの体験教室 講師：宍倉春江氏	4名
食育教室	9月18日	乳幼児をもつ保護者を対象として食についての適切な情報の提供し、悩みを共有し合い、食の大切さを学ぶことを目的として実施した。 講師：富岡真理子（ネウボラセンター栄養士）	11名
親子ベビーヨガ教室	9月26日	乳幼児親子でベビーヨガを体験する 講師：篠宮方美氏	26名
人形劇	11月19日 2月19日	「人形劇団とんとん」による人形劇上演 「レインボーファクトリー」による人形劇上演	20名 25名
絵手紙教室	12月3日	自分の好きな画材で正月の絵手紙作り 講師：向井艶子氏	4名
世代間交流事業	7月5日 3月7日 1月24日	リード楽器ボランティア「フラワー合奏団」の演奏会 〃 読み聞かせボランティア「佐藤ミエ」氏による読み聞かせ（おはなし広場）	66名 54名 30名
相談支援事業	通年	子育ての不安感等を緩和するために実施した。	10名

成果	子育て支援事業を含め各種事業を更に充実させたことで好評を得て、より多くの親子に参加いただくとともに、親子の触れ合いと情報交換の場を提供することで子育て支援を図った。また、子供ボランティア育成事業などにも力を注いだことで事業の参加者を増やすことができ、ボランティア意識の高揚など健全育成につなげることができた。
課題・方向性	社会情勢や生活環境が変化する中、子育て世代が新たに抱えるニーズを把握することで、事業展開に工夫を凝らし参加意欲を高め更なる充実を図るとともに、利用者が安心して利用できる施設環境の整備に取り組みたい。また、SNSの活用による情報提供やPRにもより注力し、充実継続して行く。

④障がい者福祉センター

障がいを持った方に対し、社会との交流促進や余暇支援のための便宜を提供し、福祉の増進を図るための事業を実施した。

(ア) 月別利用状況[貸室]

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	R5年度	増減
研修室	292	320	334	549	280	338	445	240	257	292	260	377	3,984	4,054	△ 70
プレイルーム	210	292	368	506	550	412	452	223	343	190	280	262	4,088	4,188	△ 100
障がい者談話室	210	292	368	506	550	412	452	223	343	190	280	262	4,088	4,188	△ 100
療育相談室	57	39	40	35	113	73	43	54	61	50	46	46	657	670	△ 13
合計	769	943	1,110	1,596	1,493	1,235	1,392	740	1,004	722	866	947	12,817	13,100	△ 283

(4) 南部保健福祉センター管理経営事業

① 地域福祉センター

地域住民やボランティア、民間福祉団体等の福祉活動の拠点として利用を促進するとともに、各種福祉情報の提供を総合的に行い、地域住民の福祉意識の高揚を図った。また、地域住民の福祉ニーズや相談に応じるとともに、適切な管理運営と住民参加による各種事業を実施した。

(ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R5年度	増減
ボランティアルーム	76	103	95	106	128	118	97	96	181	95	77	133	1,305	1,510	△ 205
調理実習室	18	15	12	13	7	11	15	68	50	36	56	24	325	180	145
多目的室	502	737	680	921	594	1,288	1,043	1,008	843	762	703	712	9,793	11,483	△ 1,690
創作活動室	9	6	12	49	9	13	49	9	5	44	39	9	253	674	△ 421
会議室②	63	88	94	138	71	118	209	102	131	87	101	107	1,309	1,167	142
合計	668	949	893	1,227	809	1,548	1,413	1,283	1,210	1,024	976	985	12,985	15,014	△ 2,029

(イ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内容	参加者
子育て支援事業 (子育てサロン)	5月10日 7月20日 9月24日 11月30日	市内在住の就学前の児童を対象に、遊びなどを通して心身の健全な発達を促すとともに、同じように子育てをしている仲間との交流の場の提供を目的として実施した。 講師 市原市南総消防署 救急隊員※ 協力団体：いちほらシルバー友の会（昔あそび）※ 子育て家庭支援員（親子三代ミニ運動会） 更生保護女性会南総支部（絵本の読み聞かせ）※ ※児童館等と共催	114名
なのはなフェスタ	2月22日	地域住民の交流と当館の利用拡大を目指し、各センターや地域の関係団体と連携したイベントを行い、様々な世代の交流の場を提供するとともに、ボランティアとして参画していただくことで、地域の担い手として活躍できる場づくりを行った。 内容：演芸部門（利用サークル・団体等の発表）、囲碁・将棋大会、ロコモチェック&血管年齢測定、子育てクラブ（おまつり広場、サイエンスショー）及びスタンプラリー等	761名
ふれあいいきいき サロン事業	7月24日 8月30日 10月17日 2月28日	一人暮らし高齢者や介護に不安を抱える方などが地域で孤立することなく、安心していきいきとした生活が送れるよう、交流やふれあいの場の提供を目的としてサロンを実施した。 講師：袴田龍一氏 佐藤和美氏 大関博美氏（トータス） 宮澤純之氏 四方洋平氏（ひまわり） 矢野誠（市原市消費生活センター） 協力団体：市原市地域包括支援センター トータス 市原市地域包括支援センター ひまわり 市原市消費生活センター	95名

地域交流事業 (歌声喫茶)	5月8日 10月30日 12月11日	楽器の生演奏に合わせて参加者が一緒に歌ったり、踊りを観賞することで、参加者相互のふれあいや交流の機会を設けた。 協力団体：チャーリーウクレレクラブマハロ (2回) アコーディオンいちほら	125名
世代間交流事業 (昔あそびやゲームにチャレンジ)	1月25日	市内在住の未就学児から高齢者まで幅広く参加者を募り、「昔あそびやゲーム」を通して楽しい時間を過ごす中で、多様な世代の相互理解を深め、より明るい生活が送れるようにすることを目的として事業を実施した。 協力団体：牛久小学校区小域福祉ネットワーク	33名
障がい者交流事業 (ボッチャ体験交流会)	8月3日	障がいのある方とボランティアや地域住民との交流の場として、ボッチャの体験・交流会を実施し、障がい者への理解と交流を図ることにより、思いやりのある地域づくりを推進した。 協力団体：市原ボッチャクラブ	19名

成果	世代間交流の機会を設けることで、高齢者の生きがいづくりや、遊びを通じた児童の健全な心身の発達を促すことができた。また、2回目の「なのはなフェスタ」を開催し、利用者相互の交流や新たな来館者の開拓ができ、当館の活性化に寄与することができた。
課題・方向性	相対的に事業への参加者は増加傾向にあるが、一部の事業では定員割れを生じていることから、住民ニーズ、利用者ニーズを反映した効果的なふれあいの場や交流の場を提供していく必要がある。また、広く参加者を募る観点から、事業の周知方法についても効果的な手法について検討する必要がある。

②中高年健康増進施設

地域の中高齢者の健康増進に寄与するために、各種教室を開催した。

(ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R5年度	増減
健康増進施設	1,723	1,558	1,772	2,166	1,975	1,978	2,021	1,667	1,659	1,713	1,708	786	20,726	20,260	466

(イ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内 容	参加者
水中ウォーキング	月1回 月曜日 ※5、6、10、11 月2回 年14回 (5月～2月)	健康増進室・歩行用プール安全講習会受講登録済みの方を対象に、アクアビクス(水中エアロビクス)・アクアウォーキング(水中歩行)に筋トレを加味しながら、体力向上と健康意識を高めることを目的として実施した。 講師：株式会社 パーソンアンドパーソンスタッフ	110名
月例講習会 (体力向上レッスン)	月1回 金曜日 ※6、10月：2回 年12回 (5月～2月)	健康増進室・歩行用プール安全講習会受講登録済みの方を対象に、健康な身体を創るために筋トレなどを行うとともに健康意識を高めることを目的として実施した。 講師：株式会社 パーソンアンドパーソンスタッフ	199名
安全講習会	毎週3回 (火・木・土曜日) 年94回	安全管理を徹底し事故防止を図ることを目的として実施した。	113名
ミニストレッチ教室	週4回 ※金曜日：2回 (水・金・日曜日) 年179回	準備体操・整理体操としてのストレッチの普及、定着を図ることを目的として実施した。 講師：株式会社 パーソンアンドパーソンスタッフ	2,275名

成果	定期的な事業の展開により参加者も増加傾向にあり、インストラクターによる的確な指導に沿って運動を行うことで、効果的に参加者の健康維持と健康意識の高揚を図ることができた。
----	---

課題・方向性	安全講習会の受講者が増えてきており、各事業の参加者並びに健康増進室自体の利用者が増加傾向にある。今後も、より多くの高齢者が安心して利用できる体制と、利用促進に向けた広報やニーズに合った事業内容の検討を進めていく。
--------	--

③老人福祉センター

高齢者が健康で明るい生活が送れるよう憩いの場を提供するとともに、豊かな心で生きがいのある生活が送れるように、健康増進や介護予防を目的とした各種講座を実施した。

(ア) 月別利用状況〔貸室〕

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R5年度	増減
大広間	団体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	個人	323	320	330	364	316	300	320	291	285	279	295	299	3,722	3,781	△ 59
和室		0	14	0	0	60	3	20	0	13	0	16	2	128	107	21
合計		323	334	330	364	376	303	340	291	298	279	311	301	3,850	3,888	△ 38

(イ) 年間事業実施状況

事業名	期 日	内 容	参加者
健康体操教室	6月～11月 (全10回)	高齢者の健康維持と仲間作りを目的として、健康体操教室(1期:5回、2期:5回)を実施した。 講師:山口 紀美代 氏	251名
ヨガ教室(初級)	5月～7月 (全8回)	高齢者の健康維持と仲間作りを目的として、初心者でも参加できるヨガ教室を実施した。 講師:古川 佳子 氏	224名
ヨガ教室 「中 級」	9月～11月 (全8回)	健康維持と仲間作りを目的として、ヨガ教室を実施した。 講師:古川 佳子 氏	220名
ハーモニカ教室	6月～7月 (全8回)	ハーモニカを通して高齢者に趣味活動の充実と交流の場を提供することを目的として実施した。 講師:高松 洋子 氏	26名
一文字書教室	1月～2月 (全5回)	書道を通して高齢者に趣味活動の充実と交流の場を提供することを目的として実施した。 講師:大野 文子 氏 藤田 のどか 氏	50名
太極拳教室	1月～2月 (全5回)	太極拳を通して心身の健康と基礎体力の向上並びに仲間づくりの場を提供することを目的として実施した。 講師:松井 将子 氏、久保田 和彰 氏、野口義倫 氏	136名
太巻き寿司教室	11月26日 1月28日 (全2回)	市原市の伝統的な太巻き寿司の作り方を学ぶとともに交流の場を提供することを目的として実施した。 講師:小出 一子 氏	20名
健康教室① 「講 話」	10月24日	高齢者を対象に「腸内環境を整えるための食生活」をテーマとした講話を実施し、健康と食生活についての知識を深めた。 講師:千葉県がんセンター栄養科 上席専門員 石橋 裕子 氏	22名
健康教室② 「料理教室」	11月21日	料理実習を通して日常の食生活と健康との関りを理解するとともに、参加者同士の交流を目的として実施した。 「腸内環境を整えるための料理①」 講師:千葉県がんセンター栄養科 上席専門員 石橋 裕子 氏	17名
健康教室③ 「料理教室」	1月25日	料理実習を通して日常の食生活と健康との関りを理解するとともに、参加者同士の交流を図ることを目的として実施した。 「腸内環境を整えるための料理②」 講師:千葉県がんセンター栄養科 上席専門員 石橋 裕子 氏	14名

健康教室④ 「チャレンジ太極拳」	11月27日 12月4日 (全2回)	太極拳を通して心身の健康と基礎体力の向上並びに仲間づくりの場を提供することを目的に実施した。 講師：松井 将子 氏、久保田 和彰 氏、野口義倫 氏	26名
---------------------	--------------------------	--	-----

成 果	それぞれの事業で概ね定員を確保することができた。健康講座では高齢者の体力の維持と増進を図ることができ、教養講座では健康に関する講座や創作活動を通して、参加者相互の交流並びに生きがいのある活力に満ちた生活につなげることができた。
課題・方向性	一部の事業を除き参加者は増加傾向にあるが、参加者の固定化が見受けられる。広範囲な地域からの参加者を募る必要があることから、広報いちほらや地域新聞だけではなく、多様な広報手段の利用を促進する。

④児童館

児童に健全な遊びを提供し、健康の増進及び体力の向上を図るとともに、情操を豊かにすることを目的として各種の事業を実施した他、子育て支援や青少年の健全育成に努めた。

(ア) 月別利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R5年度	増減
児 童	116	105	141	169	244	161	128	123	124	118	238	160	1,827	1,693	134
保護者	111	109	126	138	179	153	114	122	106	112	195	129	1,594	1,500	94
合 計	227	214	267	307	423	314	242	245	230	230	433	289	3,421	3,193	228

(イ) 図書貸出状況

児童の情操を豊かにする紙芝居や図書の閲覧、貸出を行った。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R5年度	増減
登録者	4	3	13	6	14	11	7	5	5	7	3	5	83	72	11
貸出(冊)	84	171	191	220	332	232	231	199	64	168	192	182	2,266	2,571	△ 305

(ウ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内容	参加者
子育て支援事業			
あかちゃんクラブ 「ほっぷ」	毎週金曜日	生後3ヶ月頃からおおよそ1歳頃までのお子さんとその保護者を対象とし、育児不安の解消や情報交換の場を提供するとともに、親子のふれあい、子育てに役立つ情報等を提供するために実施した。	393名
ちびっこクラブ 「すてっぷ」	毎週水曜日	1歳頃から未就学児のお子さんとその保護者を対象とし、育児不安の解消や情報交換の場を提供するとともに、親子のふれあい、子育てに役立つ情報等を提供するために実施した。	521名
親子クラブ「じゃんぷ」	毎週土曜日	1歳頃から未就学児のお子さんとその保護者を対象とし、育児不安の解消や情報交換の場を提供するとともに、親子のふれあい、子育てに役立つ情報等を提供するために実施した。	642名
定期企画事業			
わくわくイベント	月3回	児童に工作や読み聞かせなどを通して、情操を豊かにするとともに協調性を育むことを目的として実施した。	223名
子どもボランティア育成支援事業	5月8,22,29日	ボランティア体験を通して、社会福祉についての理解と関心を深めることを目的として実施した。	66名

	6月8, 19日 7月6, 24, 31日 8月7, 14, 21, 24, 28日 9月7, 14日 10月2, 5, 23日 11月27, 28日 2月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・わくわくイベントの補助 ・子育てクラブ参加、絵本の読み聞かせ ・工作準備と補助 ・子どもの遊び相手 	
自然体験活動事業 「なのはな探検隊」	6月9日 10月27日	<p>自然に親しむことで情操を豊かにし、ひきこもりや不登校で悩みを抱える家族が他者との交流により社会と繋がる機会を提供することを目的として実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な市原の自然を親しむ ・植物や生き物を観察し生態を学ぶ <p>講師：柳池 繁氏</p>	5名 2名

単発企画事業			
乳幼児のための救急法	5月10日	救急隊員から万が一のときに必要な心肺蘇生法など基本的な知識を保護者と児童と一緒に学ぶことを目的として実施した。協力：市原市南総消防署	20名
親子うきうき☆シアター	5月15日 12月18日	児童の豊かな情操と協調性等を育むことを目的として実施した。ボランティアグループ「ぐりとぐら」によるパネルシアター等	10名 17名
世代間交流事業 「昔あそび」	7月20日 1月25日	子どもから高齢者まで様々な世代の方々が交流する機会を作り、昔遊びの面白さの再発見、遊びの技術の伝承を通じて、他者との関わり方、おもいやりの心を育むことを目的として実施した。（地域福祉センターと共催） 協力団体：「いちほらシルバー友の会」 「牛久小学校区小域福祉ネットワーク」	38名 27名
なのはな実験教室	8月18日	児童が科学に親しみ、豊かな情操を育むことを目的として科学遊びや工作を実施した。 講師：柳池 繁氏	16名
ママのリフレッシュ	9月29日	音楽を通して、親子のリフレッシュに繋げることを目的として、参加型の演奏会を実施した。 講師：Lem's	26名
親子体操	11月6日	乳幼児を持つ保護者を対象に、家庭で楽しく子育てに取り組み、子どもが健やかに育つよう支援することを目的として、親子で楽しめる体操や身体遊びを実施した。 講師：蔭山 陽子氏	10名
季節のイベント	4月～2月 (44回)	児童自ら体験することで情操を豊かにし、協調性を育むことを目的として、季節感のある工作やおはなし会を実施した。	389名
親子の料理教室	2月9日	親子で料理を楽しみ、子どもの豊かな情操を育むことを目的としてお菓子作りを実施した。 講師：吉野 知子氏	12名
相談支援事業	通年	子育ての不安感等を緩和するために実施した。	15名

成果	親子のふれあいの場を提供し、豊かな情操や協調性を育むことができた。また、児童同士の交流の場や、保護者同士の情報交換と息抜きの場として利用してもらい、事業を通じて交流やふれあいが育まれる地域の居場所となった。
課題・方向性	今後も利用者の安全配慮に努め、児童にとって安心・安全な場所の提供と親子の交流の場の充実に努めていきたい。小・中・高校生の来館促進のため、学生ボランティア事業や対象イベントを積極的に周知できるよう、ホームページや各 SNS 等をさらに活用するなど、工夫を凝らし、来館促進へつなげていきたい。

⑤障がい者福祉センター

障がいを持った方に対し、社会との交流促進や余暇支援のための便宜を提供し、福祉の増進を図るための事業を実施した。

(ア) 月別利用状況〔貸室〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R5年度	増減
障がい者交流室	529	529	495	594	516	498	557	696	572	488	491	510	6,475	5,919	556
会議室①	118	116	320	241	135	583	341	168	504	32	116	171	2,845	3,182	△ 337
合計	647	645	815	835	651	1,081	898	864	1,076	520	607	681	9,320	9,101	219

(5) 福祉避難所開設運営訓練の実施

災害時、市原市災害対策本部支援班からの要請に応じ、本会が管理運営する指定管理施設において、福祉避難所として開設運営が迅速・円滑に行えるよう、各施設が策定した「福祉避難所開設・運営マニュアル」に基づき、地域関係団体等の協力のもと、今年度始めて開設運営訓練を実施した。

※災害ボランティアセンター設置運営訓練同日開催

期日	2月11日（日・祝）
場所	市原市姉崎保健福祉センター
参加者	51名
内容	「福祉避難所開設・運営マニュアル」に基づく訓練 ・市との連携確認、避難所の開設準備、避難者の受入れ 協力団体：姉崎地区社会福祉協議会、有秋地区社会福祉協議会、千種地区社会福祉協議会、姉崎地区民生委員児童委員協議会、有秋地区民生委員児童委員協議会、千種地区民生委員児童委員協議会、市原市総務部危機管理課、市原市保健福祉部共生社会推進課
成果	指定管理施設職員を中心に、避難所の開設から閉鎖までの流れや地域関係者の協力により設けた避難者役の受入れ、処遇対応などを体験することで、職員の役割や運営課題等を再認識することができ、マニュアルの検証や見直し等の必要性を検討する契機となった。
課題・方向性	訓練で把握した運営課題等を整理し、マニュアルの検証や必要な見直しを図るとともに、継続的な訓練を実施しながら、円滑に福祉避難所が開設・運営ができるようエリア間の応援・受援体制の確立を意識し、地域の福祉関係者と連携した運営体制の構築に努めていくこととしたい。